

保護者、生徒アンケートとの比較、分析、検討

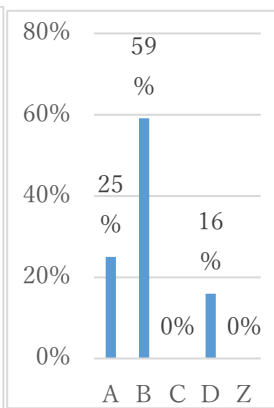
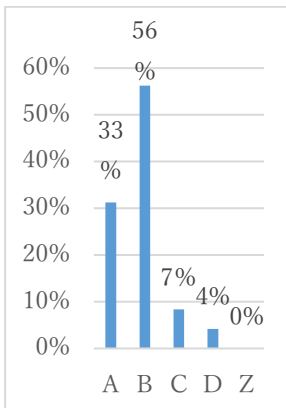
【項目1】比較

教

私は、教育方針（学校経営計画、教育目標、目指す児童・生徒像など）について、保護者に丁寧に説明し、内容を理解してもらうことができた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 平均値 76 点（以下数値のみ）
 AB（以下肯定）評価 89%
 CD（以下否定）評価 11%
 肢体不自由教育部門 69 点
 AB（以下肯定）評価 84%
 CD（以下否定）評価 16%

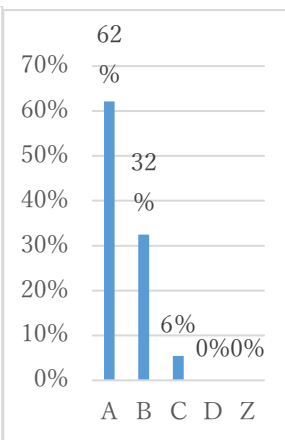
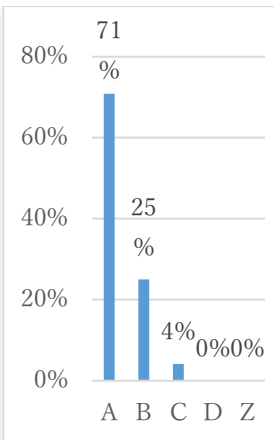
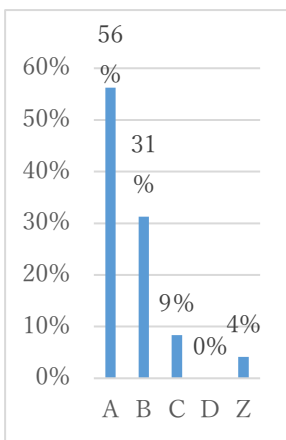
保

教育方針（学校経営計画、教育目標、目指す児童・生徒像など）について学校から説明を受け、内容を理解することができた。

就業技術科 1 年

2 年

3 年

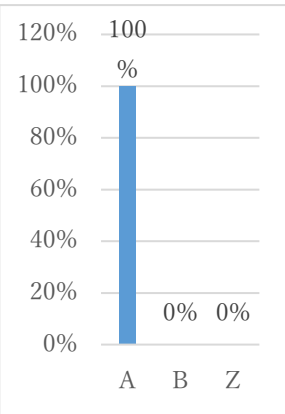
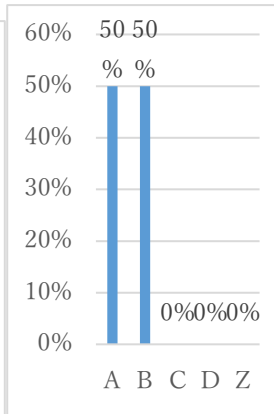
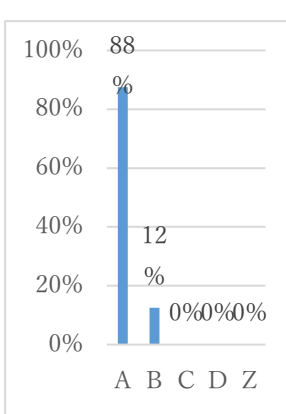


就業技術科
 1 年 85 点
 肯定 87% 否定 9%
 分からない 4%
 2 年 91 点
 肯定 96% 否定 4%
 3 年 91 点
 肯定 94% 否定 6%

肢体不自由教育部門小

中

高



肢体不自由教育部門
 小 97 点
 肯定 100% 否定 0%
 中 88 点
 肯定 100% 否定 0%
 高 100 点
 肯定 100% 否定 0%

【項目1】分析、検討

- ・教職員においては、担任業務に入っていない教職員（保護者に直接説明を行っていない）を除き、全員が肯定的評価である。
 - ・ただし、両部門とも約半数がB評価であり、内容を理解してもらうことが何となくできているであろう、という曖昧なレベルが多い。平均値が両部門80点を下回っていることがそのことを示している。
 - ・保護者においては肢体不自由教育部門においては全学部100%、就業技術科においても80%後半から90%台と、肯定的評価が多い。平均値も最低値が85点と高い評価がみられる。
- 教職員より保護者の評価に肯定的評価が多くみられる。保護者に対しての繰り返しの説明が丁寧に行われているが、実は内容が曖昧で不均一ではないかと考えられる。

新学習指導要領改訂に伴う3観点での学習評価や、身に付く力の明確化、観点別学習状況の評価による目標の変化等を含め、教育目標—指導根拠の周知徹底と、丁寧な説明を継続していく。

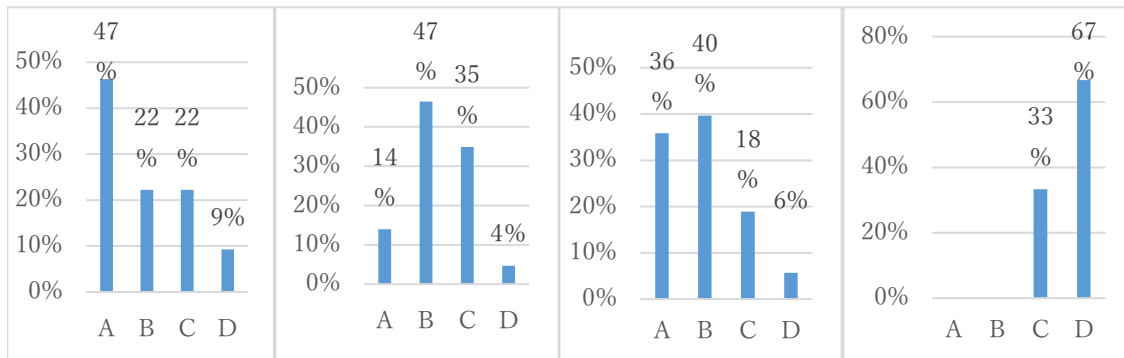
教務部、学部学科主任、担任、各授業担当者

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

青峰学園の教育目標（学部・学科・学年目標）を知っていますか。

就業技術科 1年 2年 3年 肢体不自由教育部門



・肢体不自由教育部門生徒は肯定的評価がゼロ。説明を受けていないと認識しているか、教職員が説明をしていない。

・就業技術科生徒は、肯定的評価が70%台であるが、否定的評価も30%台と高い。

・就業技術科2年生においてはAが14%と極めて低い。

→各目標の周知と、各教科等で身に付く力の関連性が十分に説明できていない。肢体不自由教育部門生徒は認識に差があるが、学習の根拠として根拠の説明は必要。

授業で身に付く力と、教育目標や各学部・学科目標等との関連性や必要性を、授業導入時や集会等で明確に分かりやすく繰り返し説明していく。教務、各授業担当者、学部、学年教職員

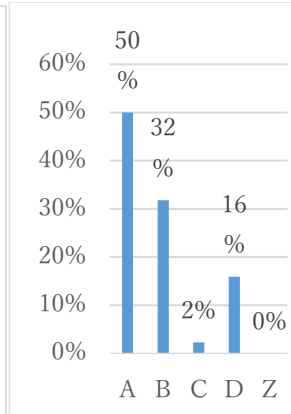
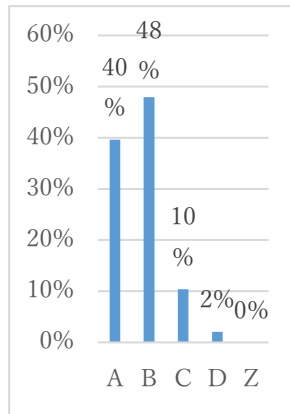
【項目2】比較

教

私は、教育活動を進める際、保護者と連携することができた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 78点
 肯定的評価 88%
 否定的評価 12%

肢体不自由教育部門 74点
 肯定的評価 82%
 否定的評価 18%

※CD評価は2名を除き、保護者と話す機会のない教職員。2名は担任。

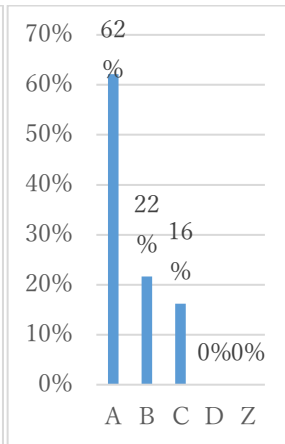
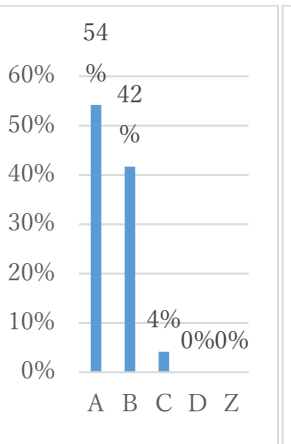
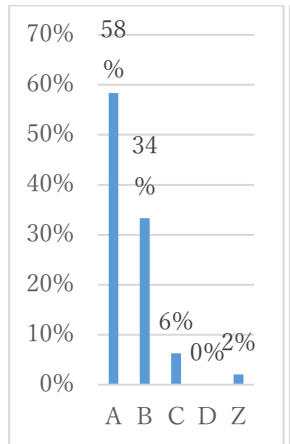
保

学校は、保護者と連携して教育活動を進めていると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年



就業技術科
 1年 87点
 肯定 91% 否定 6%
 分からない 2%

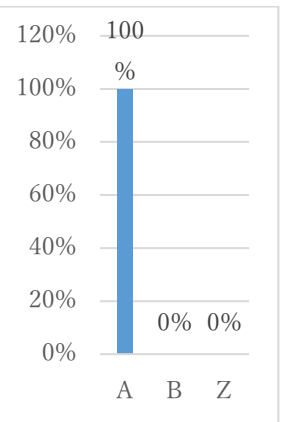
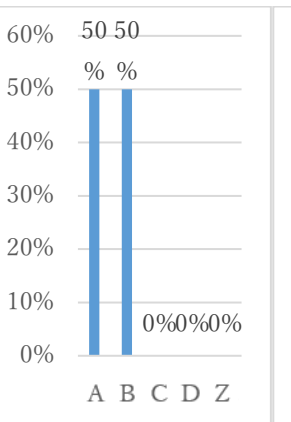
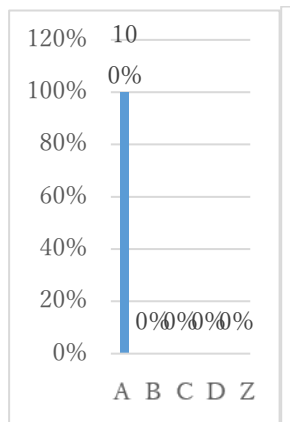
2年 86点
 肯定 96% 否定 4%

3年 82点
 肯定 84% 否定 16%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門
 小 100点
 肯定 100% 否定 0%

中 88点
 肯定 100% 否定 0%

高 100点
 肯定 100% 否定 0%

【項目2】分析、検討

- ・教職員において、肯定的評価が多いが、就業技術科においては A 評価が半数を下回っている。
- ・教職員において、担任が CD 評価を付けている。平均値も 80 点を下回っている。
- ・保護者においては、のきなみ高い評価を得ているが、就業技術科 3 年においては否定的評価が 20% 近くみられる。平均値においても学年進行で下がってきている。

→保護者との連携は必須事項であり、保護者の好意的な評価が甘んずることなく、継続して連携を密に教育活動を進めていく必要がある。担任に CD 評価があることは、連携ができていないと自覚しているということであり、大きな問題である。同時に進路決定学年の保護者評価に否定的評価が多いことは、進路指導部とも連携した改善が早急に必要である。

児童・生徒の学習計画は児童・生徒本人や、保護者の願いを考慮したものでなければならず、連携・共有なくして立案できるものではない。日々の学習状況等の連絡はもとより、成長や課題、改善策等の共有もまた必須である。同時に、連携にはコミュニケーション力が必須であり、進路に向けた必要な知識技能に加え、適切にコミュニケーションが取れる力の向上が必要である。

進路指導部、研修・研究部、学部学科主任、担任

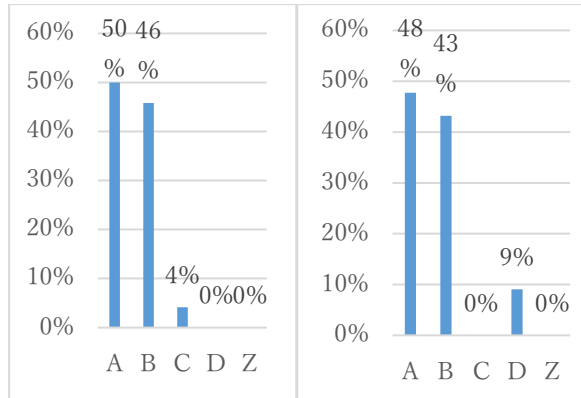
【項目3】比較

教

私は、専門性を発揮し、児童・生徒の実態に応じた教育を丁寧に行ってきた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 85点
 肯定的評価 96%
 否定的評価 4%

肢体不自由教育部門 80点
 肯定的評価 91%
 否定的評価 9%

※就業技術科 C 評価は担任、進路専任
 肢体不自由教育部門 D 評価は学校介護職員

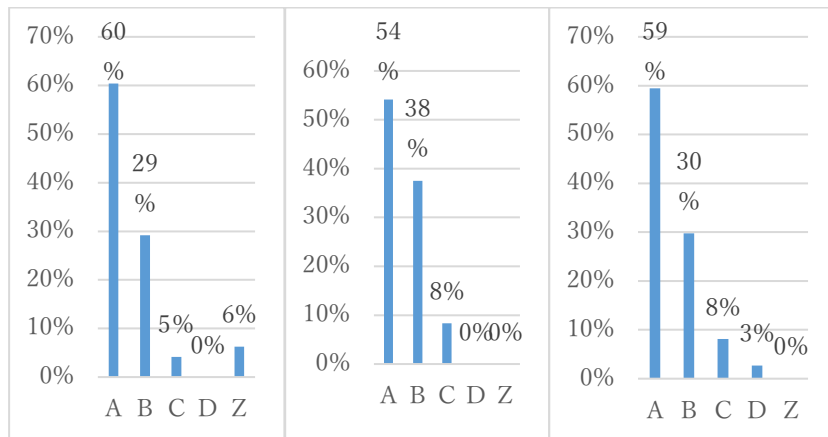
保

学校は、児童・生徒の実態に応じた教育を丁寧に行っていると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年



就業技術科

1年 89点
 肯定 89% 否定 5%
 分からない 6%

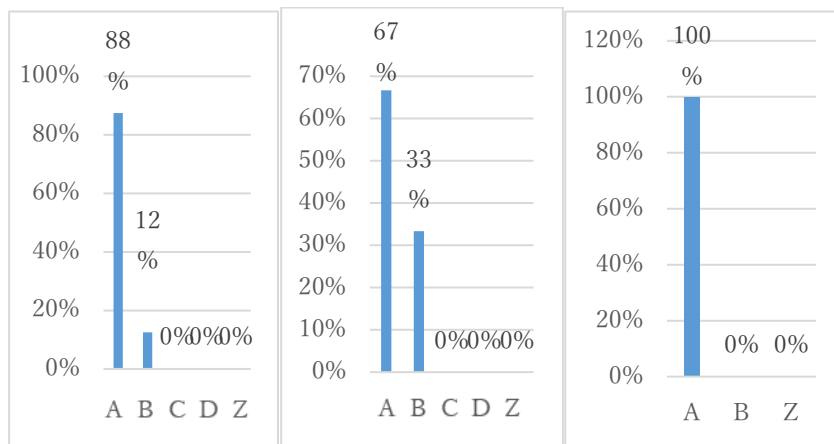
2年 84点
 肯定 92% 否定 8%

3年 84点
 肯定 89% 否定 11%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門

小 97点
 肯定 100% 否定 0%

中 92点
 肯定 100% 否定 0%

高 100点
 肯定 100% 否定 0%

【項目3】分析、検討

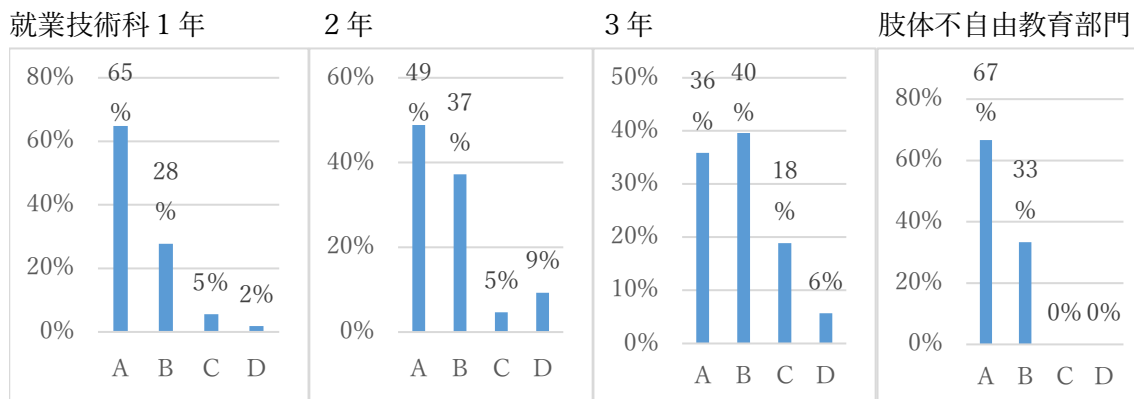
- ・教職員は肯定的評価が両部門とも90%を超えている。しかしながら平均を見ると80点そこそこであり、特に肢体不自由教育部門においては児童・生徒の実態に応じた専門性向上への取組が必要である。
 - ・保護者評価は肢体不自由教育部門においては平均値も割合も高い。就業技術科は学年進行とともに下がっている。3年においては否定的評価が10%を上回っている。
- ➔教職員は専門性を発揮しており、児童・生徒の実態に応じた教育を行っているという認識が多い。しかし平均値は両部門とも80点台であり、肢体不自由教育部門においては80点ギリギリである。特別支援教育に対する専門性と綿密な実態把握は東京都の重点課題でもある。

引き続き指導における専門性向上に向けた研鑽・研修実施と、正確な実態把握と共有の基での教育を綿密に実践していく。**教務部、進路指導部、各学部学科・全教職員**

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校生活は楽しかったり、充実していたりしていますか。



- ・肢体不自由教育部門生徒と就業技術科1年がほぼ同評価。
 - ・就業技術科23年生徒は、否定的評価が10%を超えている。
 - ・就業技術科は学年が進むにつれ否定的評価が増してくる。
- ➔就業技術科は学年進行とともに肯定的評価が90%台から70%台へと変化している。進路選択を控え、就労や生活への不安が増していることや、目標や意欲のもち方に迷いがみられることが考えられる。

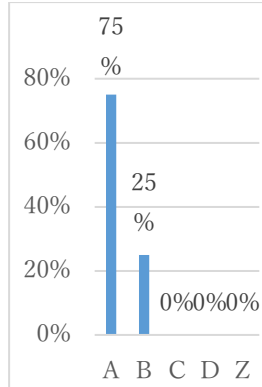
実態に合った実習先の見極めと、自ら課題を発見し解決していく学習を、主体的・対話的にを行い、生徒本人の成功体験等を一つ一つ培いながら、自己効力感向上に向けての取組を行っていく。**進路、各授業担当者、学部、学年教職員**

【項目4】比較

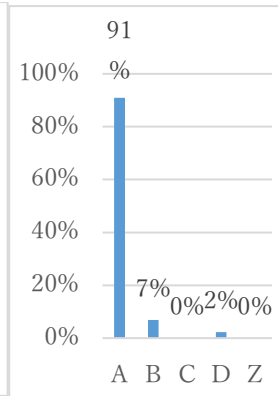
教

私は、児童・生徒の人権を大切にし、いじめや体罰の防止に努めた。

就業技術科



肢体不自由教育部門

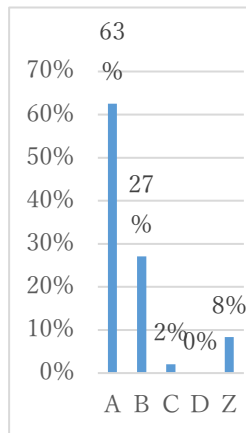


就業技術科 94点
 肯定的評価 100%
 否定的評価 0%
 肢体不自由教育部門 96点
 肯定的評価 98%
 否定的評価 2%
 ※D評価は学校介護職員

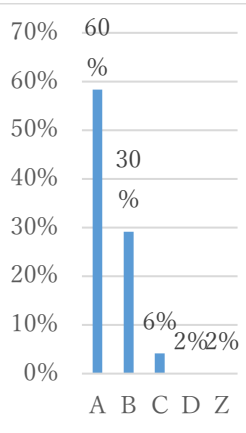
保

学校は、児童・生徒の人権を大切にしていると感じた。

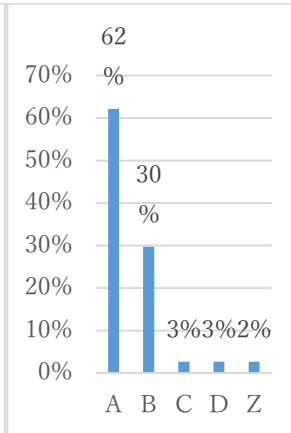
就業技術科 1年



2年

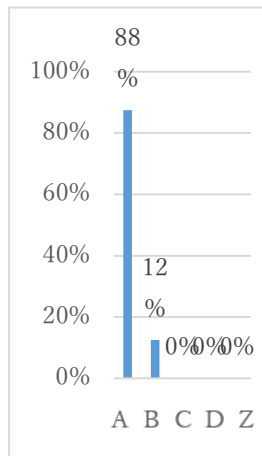


3年

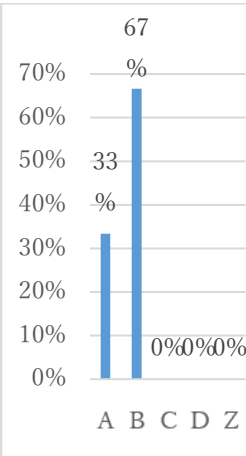


就業技術科
 1年 91点
 肯定 90% 否定 2%
 分からない 8%
 2年 85点
 肯定 90% 否定 8%
 分からない 2%
 3年 88点
 肯定 92% 否定 6%
 分からない 2%

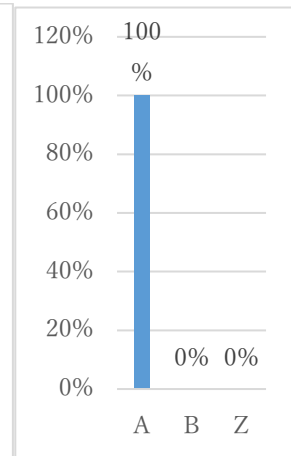
肢体不自由教育部門 小



中



高



肢体不自由教育部門
 小 97点
 肯定 100% 否定 0%
 中 83点
 肯定 100% 否定 0%
 高 100点
 肯定 100% 否定 0%

【項目4】分析、検討

- ・教職員は、肯定的評価がほぼ100%であるが、ほぼ、ということが問題である。
 - ・保護者評価は、肯定的評価が全部門で90%を超えているが、A評価が就業技術科において60%、肢体不自由教育部門中学部では30%台である。平均値が中学部において83点と低めである。
- ➔人権尊重への意識や取組は高いものがあるが、引き続き徹底をしていかなければならない。

人権尊重の取組は東京都の重点事項筆頭であり、日々の教育活動全般を通じて徹底していかなければならない。引き続き教職員同士で確認し合い、日々の言葉遣いや児童・生徒への言葉掛け、個別の指導場面に至るまで、人権尊重の意識を学校全体で更に醸成していく。

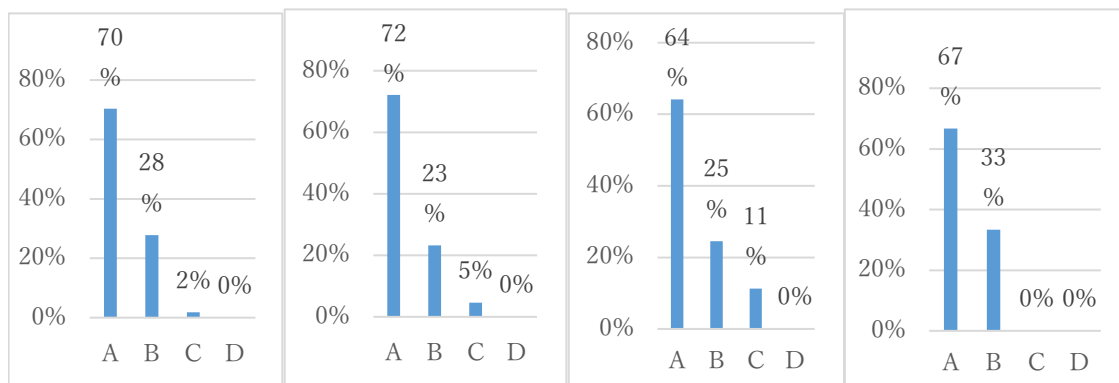
管理職、学部学科主任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の先生は、あなたを大切にしていますか。

就業技術科 1年 2年 3年 肢体不自由教育部門



- ・肢体不自由教育部門生徒は肯定的評価100%。
- ・就業技術科生徒も肯定的評価が95%以上である。
- ・就業技術科3年生は否定的評価が10%を超えている。

➔就業技術科は3年生になると否定的評価が上がっている。社会人としての意識と共に、将来の生活の不安等に寄り添う指導がより多く必要なのかもしれない。また、3年生だからこれくらいは当たり前、という教員の意識から、支援の不足も考えられる。

全ての指導場面において、児童・生徒の人権を尊重するとともに、命の大切さを指導していかなければならない。自他の存在や命を大切にする指導は、自他の心身を適切に守り、自分や相手を思いやる心を育む。全教育活動を通して、継続した重点事項である。

管理職、全教職員

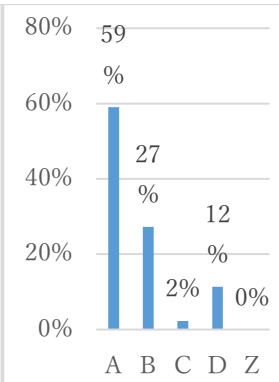
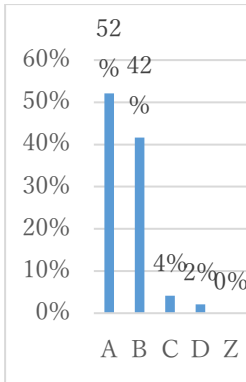
【項目5】比較

教

私は、保護者が相談をしたり、要望を出したりしやすいようにコミュニケーションの充実に努めた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	84点
肯定的評価	94%
否定的評価	6%
肢体不自由教育部門	80点
肯定的評価	86%
否定的評価	14%
※CD評価は学校介護職員、保護者と直接のかかわりが少ない担任以外の教職員	

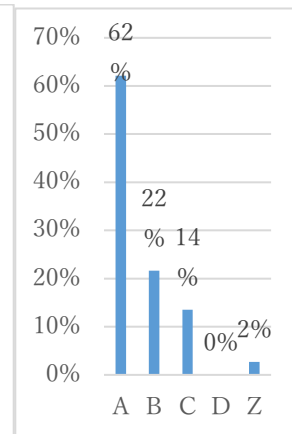
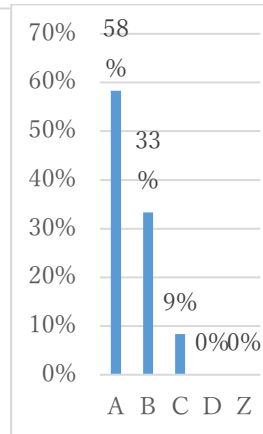
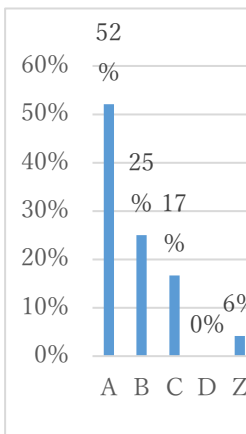
保

担任などに対して、相談をしたり、要望を出したりしやすいと感じた。

就業技術科 1年

2年

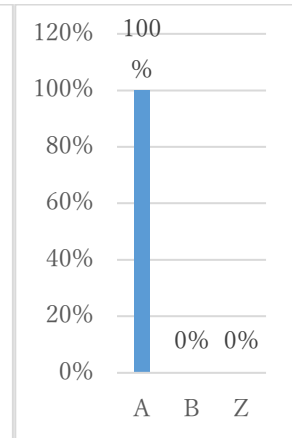
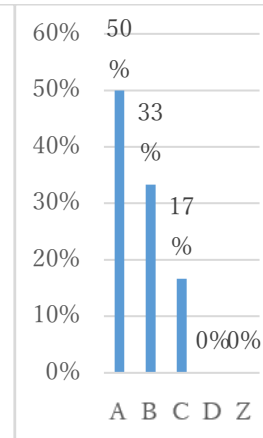
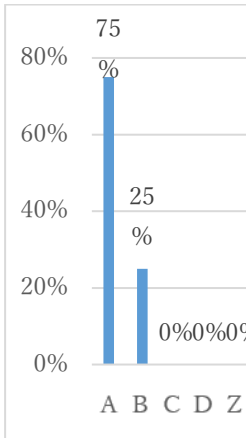
3年



就業技術科	
1年	80点
肯定	77%
否定	17%
分からない	6%
2年	85点
肯定	91%
否定	9%
3年	84点
肯定	84%
否定	14%
分からない	2%

肢体不自由教育部門 小 中

高



肢体不自由教育部門	
小	肯定的評価 100%
	否定的評価 0%
中	肯定的評価 83%
	否定的評価 17%
高	肯定的評価 100%
	否定的評価 0%

【項目5】分析、検討

・教職員の肯定的評価は80%後半から90%台と高い。否定的評価を付けている教職員は、学校介護職員や学年付きの教員。ただし、平均値は8点代前半である。

・保護者評価においては、就業技術科13年、肢体不自由教育部門中学部の否定的評価が15%前後みられる。就業技術科2年保護者の肯定的評価が90%超え、肢体不自由教育部門小、高は肯定的評価が100%。就業技術科は学年により評価が分かれている。平均値も80点台前半から半ばに留まる。

→担任の評価がそのまま反映されていると考えられる。学部・学科(学年)単位での特徴が表れている。学部、学科内での統一した連携が取れていないとも言える。

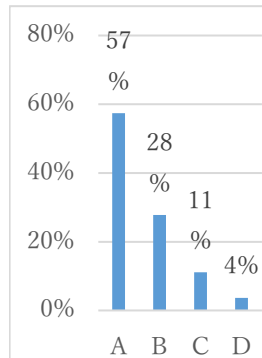
コミュニケーションは対応力であり、保護者との連携の基本でもある。児童・生徒の相談を受ける際、共感的態度や傾聴が基本となるが、相談しやすい対応を行うことで、保護者との良好な関係が構築でき、信頼関係にもつながりやすい。接遇という意味も含めた対応力に付いて、指導力向上という観点からも課題となる。 **研修・研究部、学部学科主任、全教職員**

○生徒学校評価との比較、分析、検討

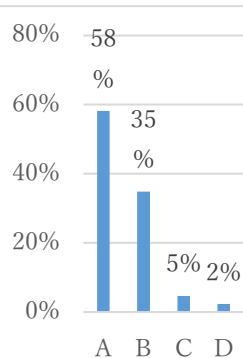
生

学校の先生は、相談をしやすいですか。

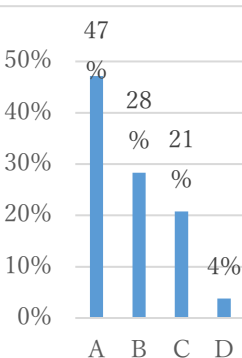
就業技術科1年



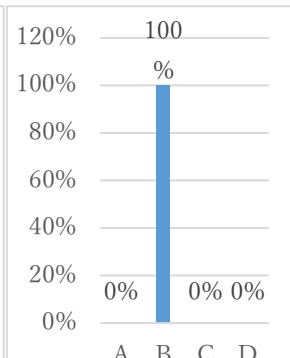
2年



3年



肢体不自由教育部門



・肢体不自由教育部門生徒はB評価ながら肯定的評価100%。

・就業技術科生徒も肯定的評価が高めであるが、3年生は70%台である。

・就業技術科3年生は否定的評価が25%を超えている。

→就業技術科は3年生になると否定的評価が上がっている。4、とほぼ同様の結果であるが、より具体的な項目のためか、肯定的評価でもA評価は50%台と低めである。相談力は社会人として必須であり、その環境づくりや相談して良かったと思われる対応力は必要である。

単元の指導計画や、適切な評価基準の作成など、指導根拠となる「教科書」の作成を今年度は行ってきた。指導力とは、そのような指導根拠とともに、実際の場面に応じた対応力である。4、と同様、児童・生徒、保護者の相談に寄り添う力や、相談に対して適切に対応できる対応力が大きな課題である。 **研究、学部・学科、全教職員**

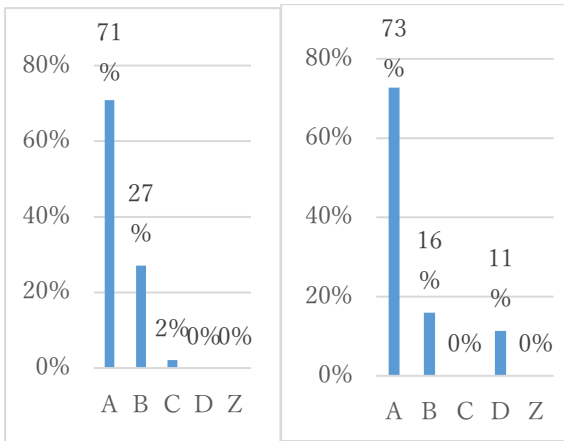
【項目6】比較

教

私は、保護者などに対して電話や窓口での対応を丁寧に行うよう努めた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 92点
 肯定的評価 98%
 否定的評価 2%
 肢体不自由教育部門 85点
 肯定的評価 89%
 否定的評価 11%

※CD評価は学校介護職員、就技は1名教員

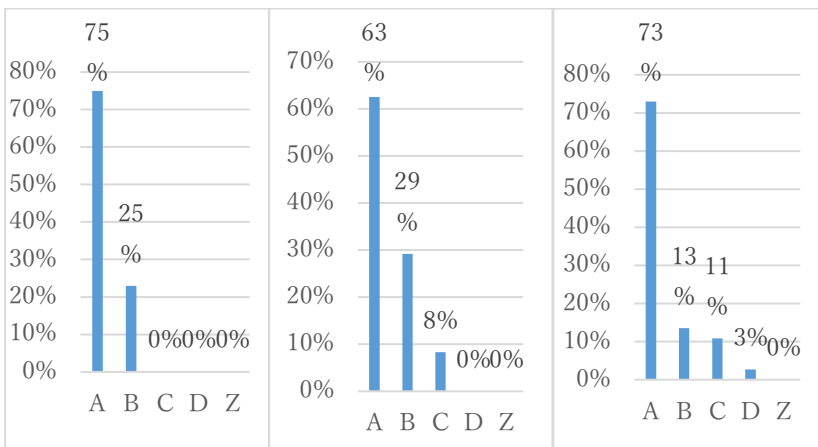
保

教職員は電話や窓口での対応を丁寧に行っていると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年

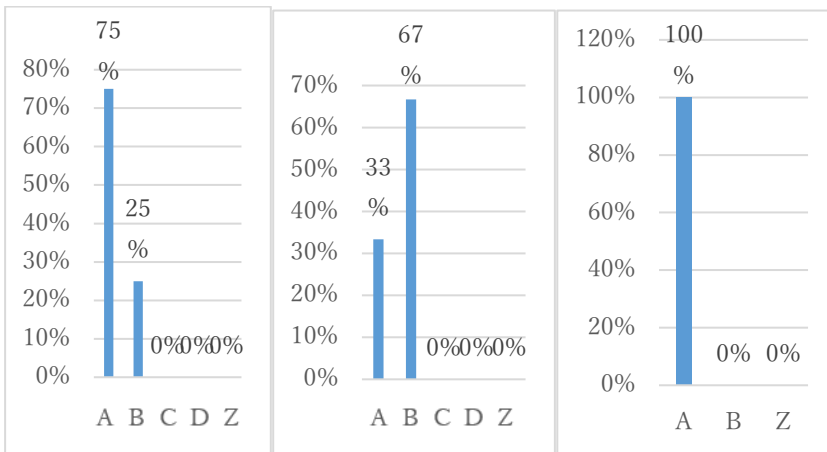


就業技術科

1年 94点
 肯定 100% 否定 0%
 2年 86点
 肯定 92% 否定 8%
 3年 86点
 肯定 86% 否定 14%

肢体不自由教育部門 小 中

高



肢体不自由教育部門

小 94点
 肯定 100% 否定 0%
 中 92点
 肯定 100% 否定 0%
 高 100点
 肯定 100% 否定 0%

【項目6】分析、検討

- ・教職員においては、おおむね肯定的評価である。
 - ・保護者においても、肯定的評価が多く、肢体不自由教育部門全学部、就業技術科1年については肯定的評価が100%である。半面就業技術科3年において、否定的評価が10%を超えている。
 - ・保護者否定的評価については、項目5と同様の評価であることが多い。
- 担任や学校との信頼関係が大きく結果に表れている傾向がみられる。

電話、窓口対応は概ね良好である。学校、担任への信頼関係が築いていけるよう、項目5、と同様接遇を含めた対応力を更に高めていく。

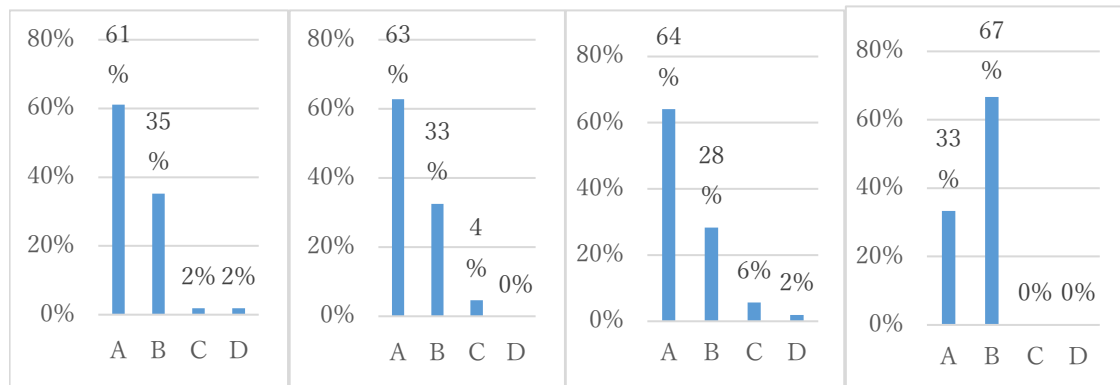
研究研修部、学部・学科、担任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の先生は、あなたに対して、分かりやすく話をしてくれますか。

就業技術科1年 2年 3年 肢体不自由教育部門



・生徒においても、おおむね肯定的評価が多いが、否定的評価を付けている生徒は、項目5と同様の評価であることが多い。

→就業技術科においては、相談のしやすさと話の分かりやすさが比例している。

傾聴が適切にできる教職員は、話も分かりやすくできる。話の聞き方受け入れ方が適切であれば、分かりやすい話し方や分かる内容の話ができると考える。教職員のコミュニケーション能力の有無が問われており、特に就業技術科においては対応力の向上が必要である。

研究研修部、学部学科主任、全教職員

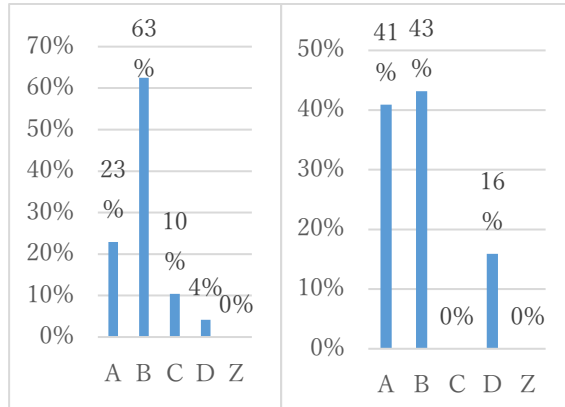
【項目7】比較

教

私は、児童・生徒の「学校生活支援シート（個別の教育支援計画）」や「個別指導計画」について、保護者に丁寧に説明し、内容を理解してもらうことができた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 72点
 肯定的評価 86%
 否定的評価 14%

肢体不自由教育部門 73点
 肯定的評価 84%
 否定的評価 16%

※CD評価は学校介護職員、保護者と直接のかかわりが少ない担任以外の教職員

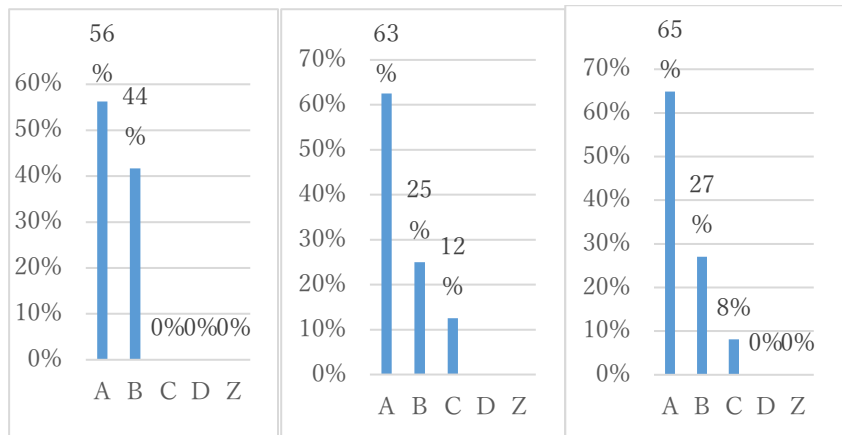
保

子どもの「学校生活支援シート（個別の教育支援計画）」や「個別指導計画」について、学校から説明を受け、内容を理解することができた。

就業技術科 1年

2年

3年



就業技術科

1年 90点
 肯定 100% 否定 0%

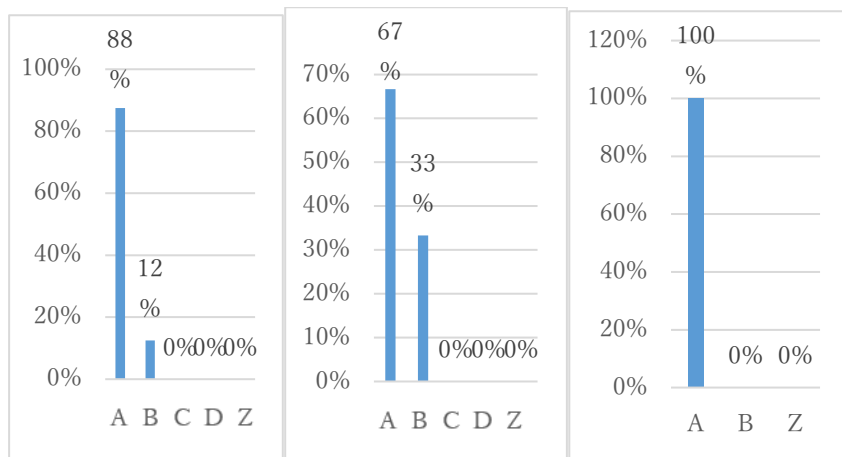
2年 84点
 肯定 88% 否定 12%

3年 87点
 肯定 92% 否定 8%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門

小 97点
 肯定 100% 否定 0%

中 92点
 肯定 100% 否定 0%

高 100点
 肯定 100% 否定 0%

【項目7】分析、検討

- ・教職員においては肯定的評価が多いが、A評価は両部門とも50%を割っており、就業技術科に関しては20%台である。平均値は70点台と低い。説明の仕方が、内容の理解が曖昧である。
 - ・保護者においても肯定的評価が多いが、就技2年生に付いてはC評価が12%もある。就技2、3年生保護者で本項目C評価を付けた方は、進路や実習についても否定的な御意見がみられた。
- 肢体不自由教育部門はここまでの項目は高評価であることが多い。保護者に寄り添っている、という姿勢の表れでもある。就業技術科においては、担任、実習担当、進路担当者と、学年進行とともに関わる教員が増えていき、またその関りも密になっていく。担任はもとより、進路決定に至るまでの基本的な流れや、進路先等での受け答え等、全ての教員が適切に行える必要がある。

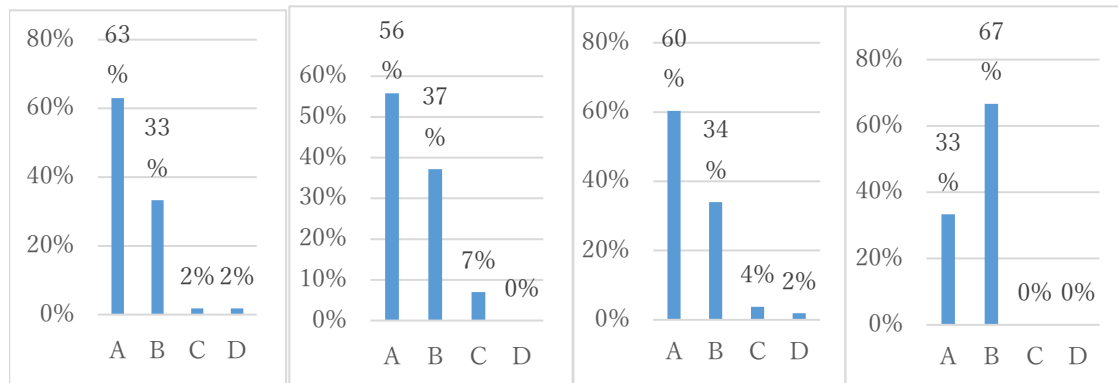
本項目は、最初の計画提示についてであり、本計画は、児童・生徒本人・保護者と共に作成していくべきものでもある。より分かりやすい説明と、保護者との共通理解は引き続き必要である。特に教育支援計画の作成、説明においては、進路決定までの流れを担任がきちんと理解している必要がある。 **教務部、相談支援部、進路指導部、学部学科主任、全教職員**

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の先生は、勉強する内容に対して、あなたが分かるように説明をしてくれますか。

就業技術科 1年 2年 3年 肢体不自由教育部門



- ・生徒においても、おおむね肯定的評価が多い。
 - ・否定的評価における他項目との関連性は、バラバラである。(項目2、5、6、全項目)
- 担当教科の内容の説明・指導はおおむね行えている。

担当教科だけではなく、他教科等との関連性をもたせることが求められている。(教科等横断的な視点) 担当教科だけではなく、引き続き他教科や学部学科目標との関連性を示しながらの指導を行っていく。 **教務、各教科担当者**

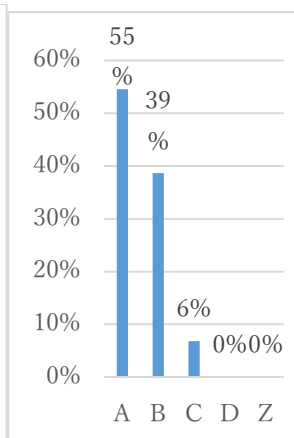
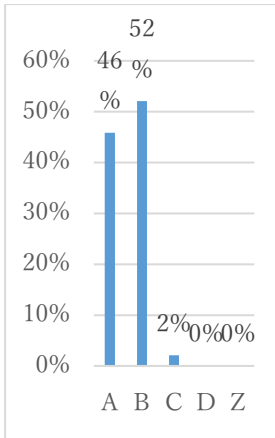
【項目8】比較

教

本校の行事（入学式、卒業式、社会見学、移動教室、修学旅行、青峰フェスタなど）は、児童・生徒の実態に合っていると考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 85点
 肯定的評価 98%
 否定的評価 2%

肢体不自由教育部門 85点
 肯定的評価 94%
 否定的評価 6%

※CD評価は式の長さについてと、式の内容についての意見

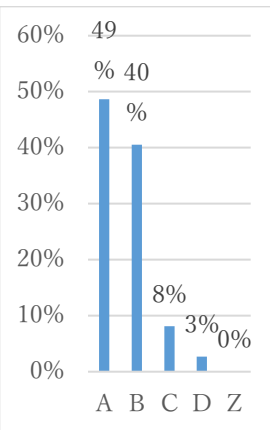
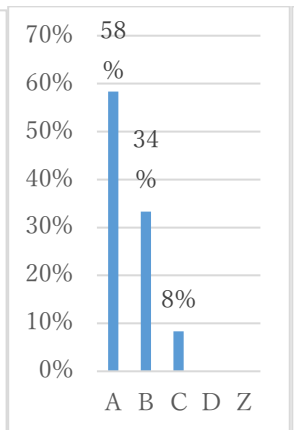
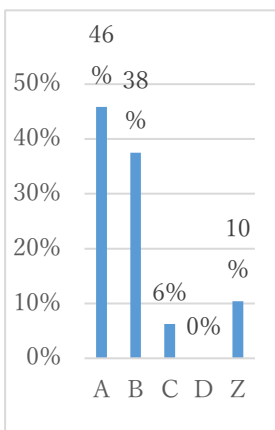
保

学校の行事（入学式、卒業式、社会見学、移動教室、修学旅行、青峰フェスタなど）は、児童・生徒の実態に合っていると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年



就業技術科
 1年 84点
 肯定 84% 否定 6%
 分からない 10%

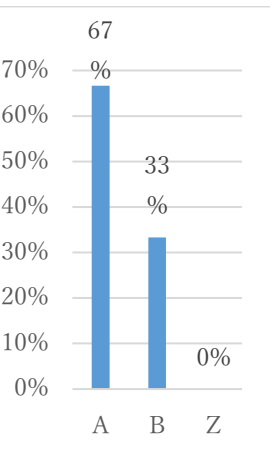
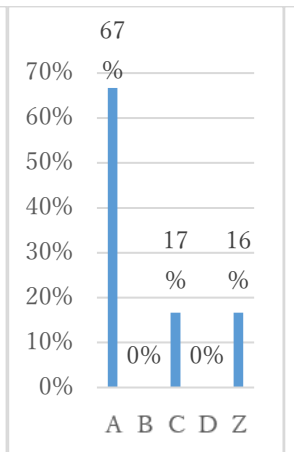
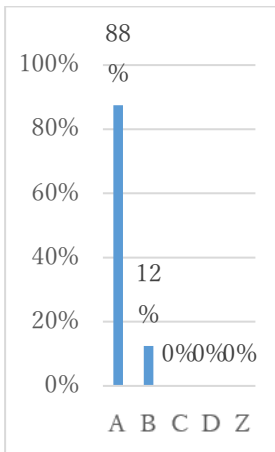
2年 85点
 肯定 92% 否定 8%

3年 81点
 肯定 89% 否定 11%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門
 小 97点
 肯定 100% 否定 0%

中 85点
 肯定 67% 否定 17%
 分からない 16%

高 90点
 肯定 100% 否定 0%

【項目8】分析、検討

- ・教職員、保護者共に肯定的評価が多い。平均値も 85 点以上。
 - ・教職員における否定的評価は、時間の長さに起因する意見が多い。(自由意見より)
 - ・今回のアンケートが青峰フェスタの前に行ったことから、フェスタについての内容は含まれていない。(外部参加の青峰フェスタ～今年度5年ぶりに実施：12月2日)
 - ・肢体不自由教育部門中学部保護者の否定的評価17%は、回答者が少ないための割合の低さ。
 - ・否定的評価については、従来の青峰フェスタが含まれていないことに要因があるように考える。
- 始業式等式の時間的な長さは改善の必要があり、既に改善している。自由意見にて、青峰フェスタの必要性が多くあるため、フェスタ実施後のアンケート調査にて再考していく。

知肢併置校ということを考慮した行事の在り方を探っていく。次年度においては肢体不自由教育部門の電車乗車学習の廃止。青峰フェスタは今年度5年ぶりの通常実施となり、来場者は948名。両部門の一体化という観点からも大切にしていける行事である。その他行事は、内容も含めて引き続き整理精選を進めていく。教務部、学部学科主任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校行事で楽しみにしている行事は何ですか。(記述式)

(生徒アンケート結果：全181名中)

青峰フェスタ	68名
修学旅行	6名
社会科見学	1名
記録会	1名

教

学校行事で大切にしたい行事は何ですか(記述式)

(教職員アンケート結果：全97名中)

○体育的行事	5名	○部門間交流	1名	○電車乗車学習	2名	○移動教室	6名
○修学旅行	9名	○青峰フェスタ	19名	○社会見学	1名	○現状の行事	3名
○講演会の精選	1名	○入学式・卒業式	3名	○3年生を送る会	1名		
○始業式や終業式	2名	○卒業前社会見学	1名	○卒業単元講座	1名		

引き続き、青峰フェスタは大切にしていけるとともに、行事の整理精選を行っていく。

教務、学部、学科

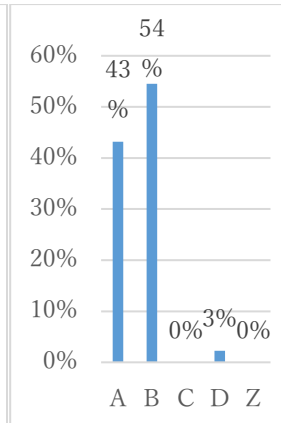
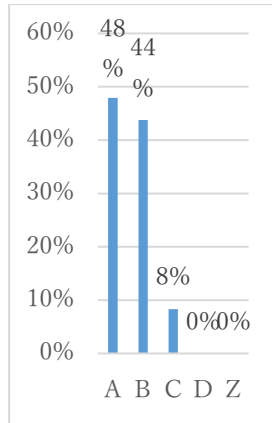
【項目9】比較

教

本校の相談機能（教育相談、健康・保健相談、進路相談など）は充実し、利用しやすいと考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	83点
肯定的評価	92%
否定的評価	8%
肢体不自由教育部門	84点
肯定的評価	97%
否定的評価	3%
※CD 評価は学校介護職員と就業技術科進路、他担任数名	

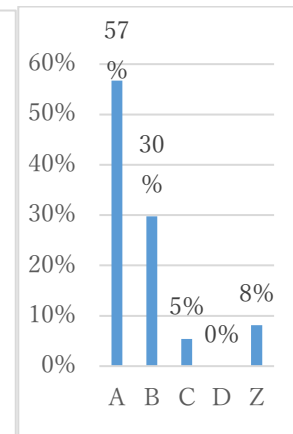
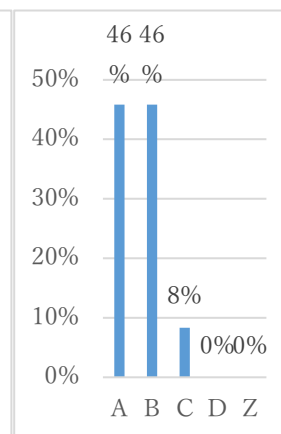
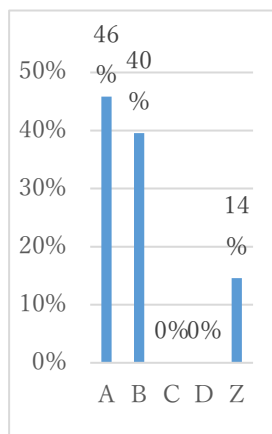
保

学校の相談機能（教育相談、健康・保健・心理相談、進路相談など）は、充実していると感じた。

就業技術科 1年

2年

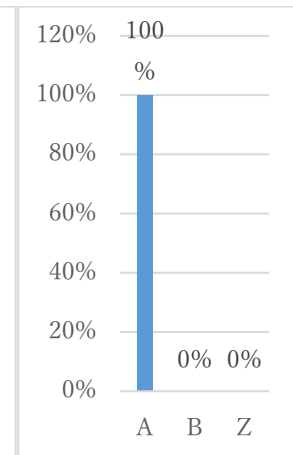
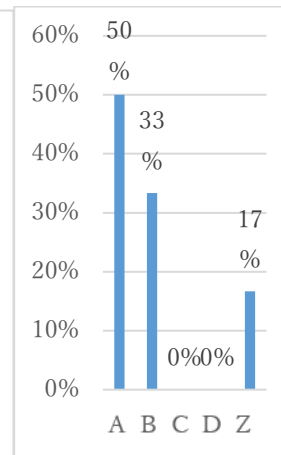
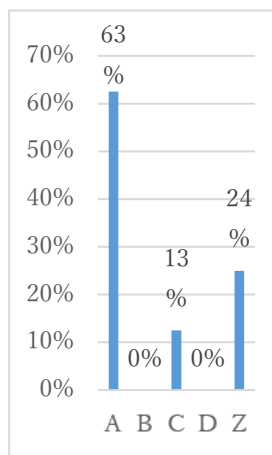
3年



就業技術科	
1年	88点
肯定	86%
否定	0%
分からない	14%
2年	82点
肯定	92%
否定	8%
3年	88点
肯定	87%
否定	5%
分からない	8%

肢体不自由教育部門 小 中

高



肢体不自由教育部門	
小	88点
肯定	63%
否定	13%
分からない	24%
中	90点
肯定	83%
否定	0%
分からない	17%
高	100点
肯定	100%
否定	0%

【項目9】分析、検討

- ・教職員は両部門肯定的評価が90%以上、保護者においても80%台後半から90%台が肯定的評価である。平均値は80点代前半とやや低めである。
- ・教職員評価において、就業技術科では担任、進路専任より否定的評価がある。
- ・肢体不自由教育部門小学部は、全体数が少ないため肯定的評価が63%となっている。
- ・就業技術科は学年進行とともにA評価が若干上がっている。平均値は2学年が最も低い。
- ・両部門とも入学に係る学部学年は、「分からない」評価が多い。
- ・就業技術科3年において、8%ではあるが「分からない」評価がある。

→肯定的評価は高いが、就業技術科1年、肢体不自由教育部門小、中学部においては「分からない」評価も多い。就業技術科3年において「分からない」評価があること自体が問題である。

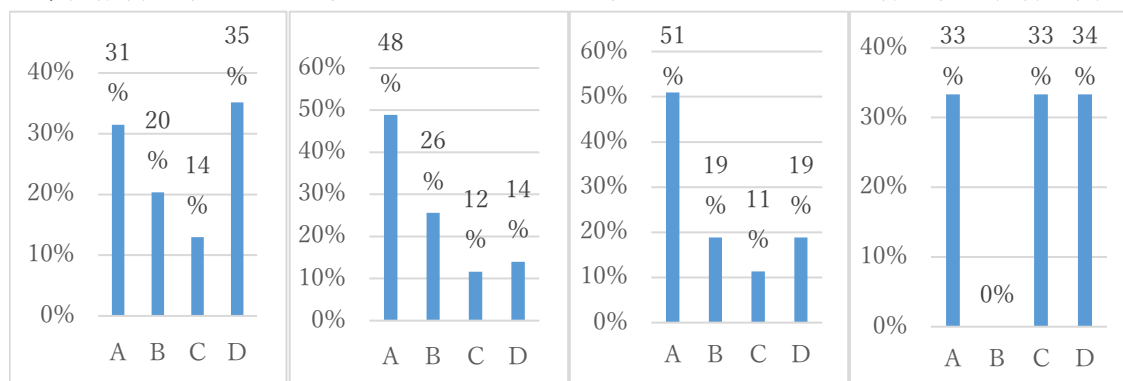
相談機能は、教育相談、療育相談・心理相談、進路相談等あるが、活用している児童・生徒には偏りがある。相談機能とその特性や役割、具体的な効果を整理して、定期的に教職員、分かりやすく保護者に提示していく必要がある。相談支援部、進路指導部、保健給食部、学部学科主任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の保健室の先生や、心理相談の先生や、進路の先生に相談をしたことがありますか。

就業技術科1年 2年 3年 肢体不自由教育部門



- ・評価項目が良くなかった。必ずしも相談をしなければならないというものではない。
- ・相談をすることでの効果があった生徒もいるだろうし、相談をする必要性を感じていない生徒もいるであろう。ただし、相談する機会や相談することでの効果等は示していかなければならない。

相談機能は、教育相談、療育相談・心理相談、進路相談等の相談機能があり、実際に活用した生徒に対しての質問にすべきである。またその前提として、相談機能の特性や役割、具体的な効果を整理して分かりやすく伝えていく必要がある。相談支援部、進路指導部、保健給食部、学部、学科

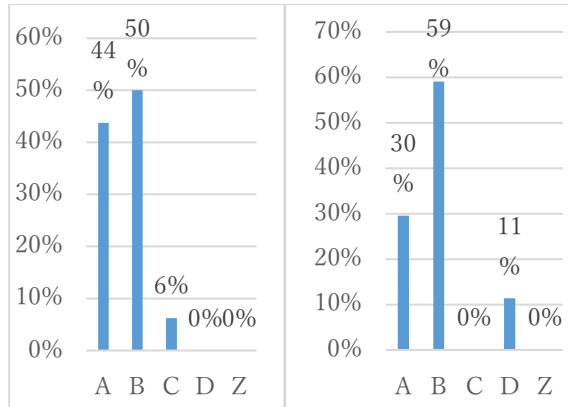
【項目10】比較

教

本校の進路指導に関する取組（面談、進路講演会、職場見学やインターンシップ、現場実習など）をとおして、児童・生徒、保護者の進路選択に関する意識を高めることができたと思う。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	83点
肯定的評価	94%
否定的評価	6%
肢体不自由教育部門	74点
肯定的評価	89%
否定的評価	11%
※CD評価は学校介護職員、就業技術科は担任3名	

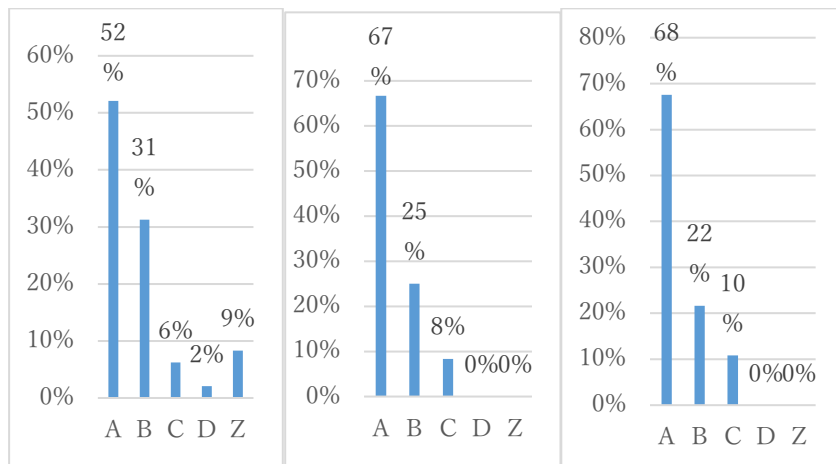
保

進路指導に関する取組（面談、進路講演会、職場見学やインターンシップ、現場実習など）をとおして、児童・生徒、保護者の進路選択に関する意識が高まったと感じた。

就業技術科 1年

2年

3年

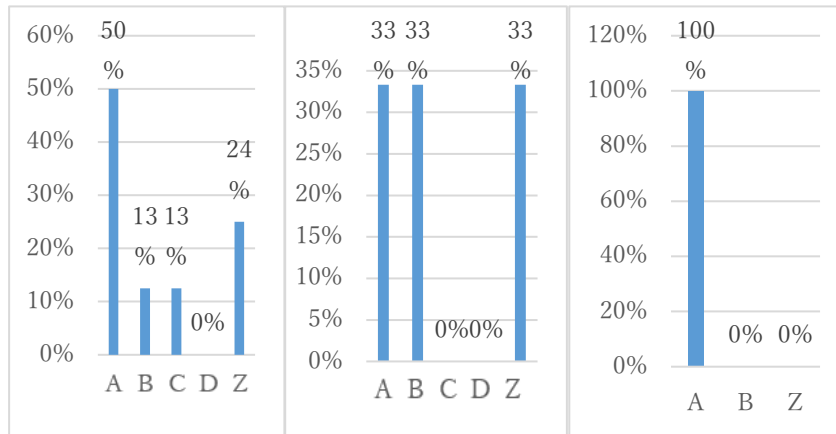


就業技術科	
1年	84点
肯定	83%
否定	8%
分からない	9%
2年	88点
肯定	92%
否定	8%
3年	86点
肯定	90%
否定	10%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門	
小	83点
肯定	63%
否定	13%
分からない	24%
中	88点
肯定	33%
否定	33%
分からない	33%
高	100点
肯定	100%
否定	0%

【項目10】分析、検討

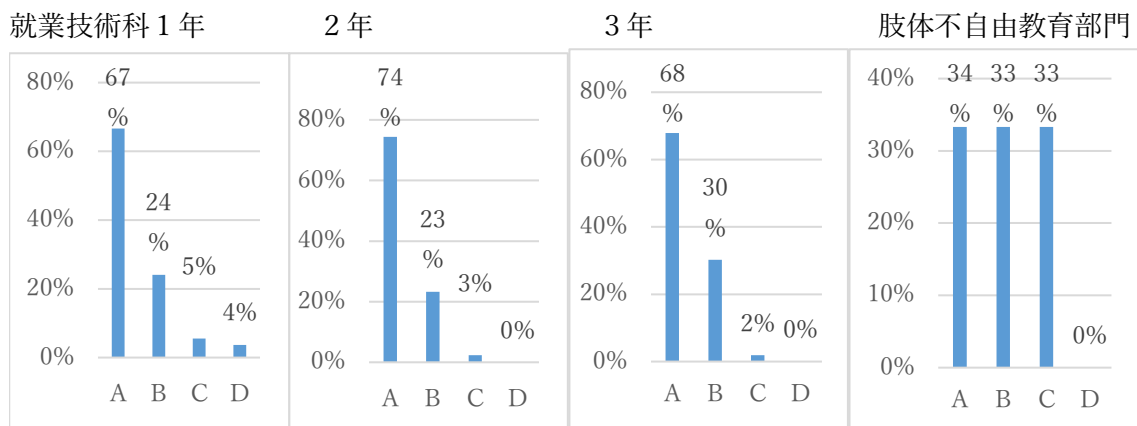
- ・教職員においては、両部門とも肯定的評価が多いが、就業技術科において担任がC評価を付けている。平均値は肢体不自由教育部門においては70点代前半である。
 - ・保護者においては、就業技術科1年、肢体不自由教育部門小、中学部は「分からない」評価が高い。
 - ・就業技術科2，3年の保護者評価において、否定的評価が学年進行につれて上がっている。
- 肯定的評価自体は高いが、A評価は60%前後である。特に肢体不自由教育部門教職員の進路に対する取組意識の低さと、就業技術科においての、保護者におけるA評価が低いことは問題。

小学部段階から、将来の生活の質の向上を目指した進路選択等の情報提供の必要がある。就業技術科において、実習の意義やそこでの評価が、実生活との繋がりや目標と乖離している可能性がある。進路と担任の情報共有や、実習評価を生活目標と如何に繋げていくかが大切である。生活の質の向上に向け、インターンシップや実習の意義を不断の授業と関連付けて伝えていかなければならない。**進路指導部、相談支援部、学部学科主任、全教職員**

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の進路に関する学習（面談、職場見学、インターンシップ、現場実習など）をして、自分の進路を考えるときに役立てようと思いませんか。



- ・就業技術科は、学年進行とともに肯定的評価は上がっている。
- ・肢体不自由教育部門は、インターンシップや実習の可否にもよると考える。

生徒は進路に関する学習を、将来の進路決定に向け役立てようという意識が高い。それに対する教職員の意識が低い。進路選択の先にあるものを見据えた教職員の意識の改善と向上が必須であり、具体的な取組の徹底が必要である。**進路指導部、相談支援部**

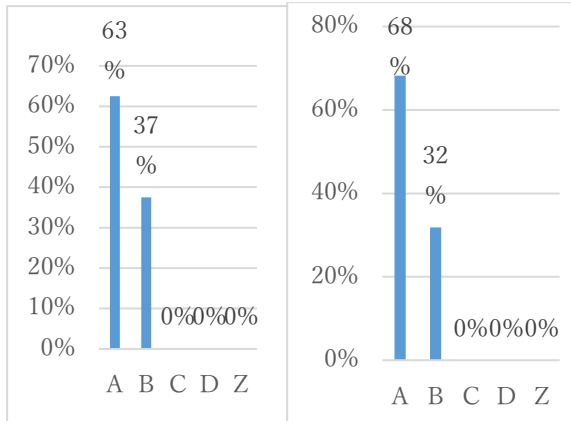
【項目11】比較

教

本校は、児童・生徒の健康や安全、命を守るために必要な指導を十分に行っていると考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	93点
肯定的評価	100%
否定的評価	0%
肢体不自由教育部門	92点
肯定的評価	100%
否定的評価	0%

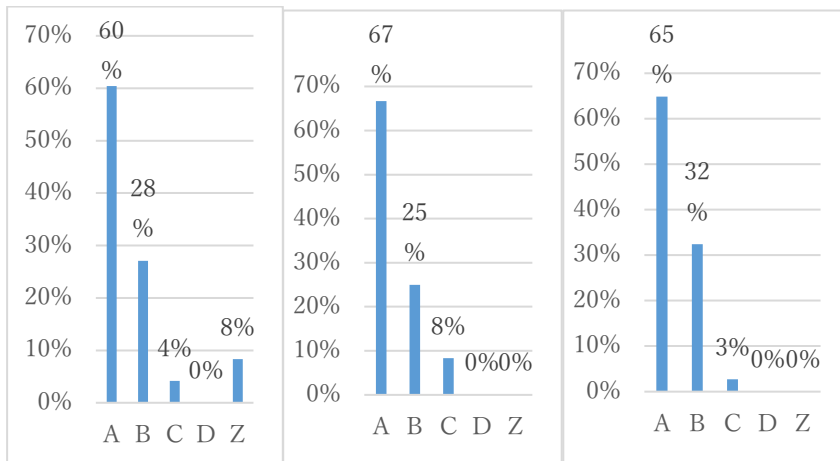
保

学校は、児童・生徒の健康や安全、命を守るために必要な指導を行っていると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年

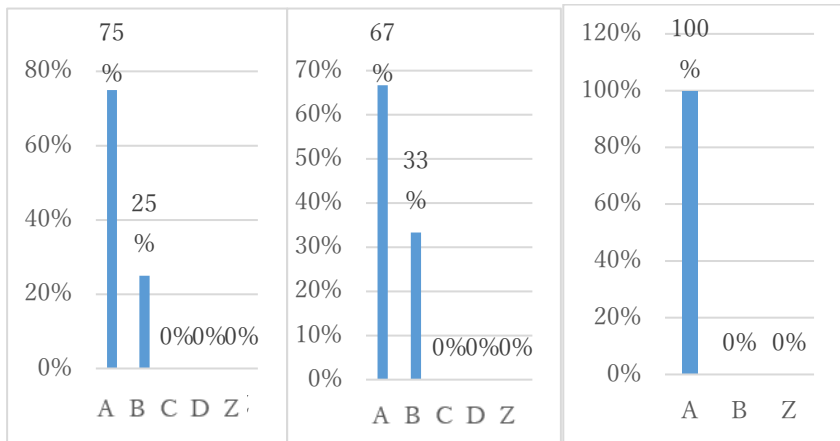


就業技術科	
1年	89点
肯定	88%
否定	4%
分からない	8%
2年	88点
肯定	92%
否定	8%
3年	90点
肯定	97%
否定	3%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門	
小	94点
肯定	100%
否定	0%
中	92点
肯定	100%
否定	0%
高	100点
肯定	100%
否定	0%

【項目11】分析、検討

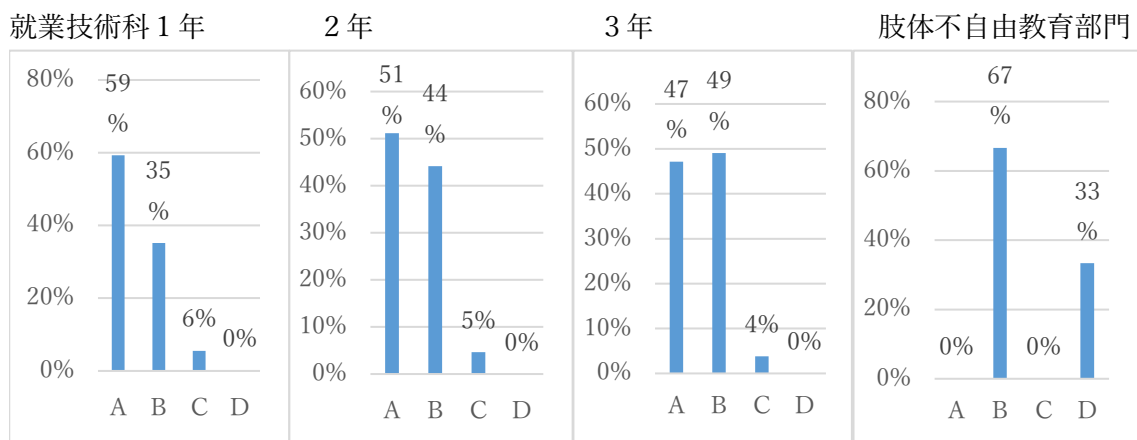
- ・教職員においては、両部門とも肯定的評価が100%である。教職員として、全員がA評価を目指していく。平均値も90点以上である。
 - ・保護者においても、両部門とも肯定的評価が約90%~100%と学年進行とともに上がっている。平均値も高く、児童・生徒自身が、生活に生かせるようになると更に良い。
- 月1回の安全指導日、アレルギー対策、避難訓練、防犯訓練、セーフティ教室等を含め、自他を大切に、適切に守るための教育実践が行えている。

項目4の人権意識と共に、心身の健康と命を守るための学習は、重点事項としても引き続き取り組んでいく。交通安全、生活安全、災害安全の意識の徹底と共に、消費者教育などの社会人としての意識や、SNSトラブル、からかい等いじめの防止など、心身の健康についての教育を徹底していく。管理職、生活指導部、学部学科主任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の健康や安全、自分や相手の命を守るための学習をして、自分の生活に役立てようと思いましたが。



- ・就業技術科においては肯定的評価が全学年90%台。
- ・肢体不自由教育部門は全体数の関係で肯定的評価が67%となっている。実態によって伝え方や手立てを工夫する必要がある。

上記同様、交通安全、生活安全、災害安全の意識の徹底と共に、消費者教育などの社会人としての意識や、SNSトラブル、からかい等いじめの防止など、心身の健康についての教育を引き続き徹底していく。生活指導部、学部、学科、担任、全教職員

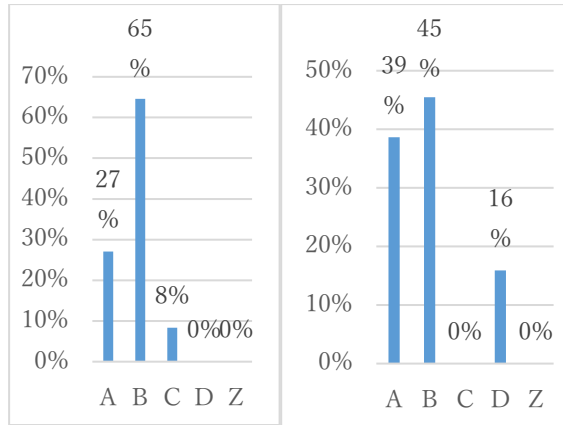
【項目11-②】比較

教

私は、保護者、児童・生徒に、学校生活のきまり（生徒心得など）を丁寧に説明し、内容を理解してもらうことができた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 78点
 肯定的評価 92%
 否定的評価 8%
 肢体不自由教育部門 73点
 肯定的評価 84%
 否定的評価 16%
 ※CD評価は学校介護職員、就技は担任ではない保護者との関りが少ない教員と、担任

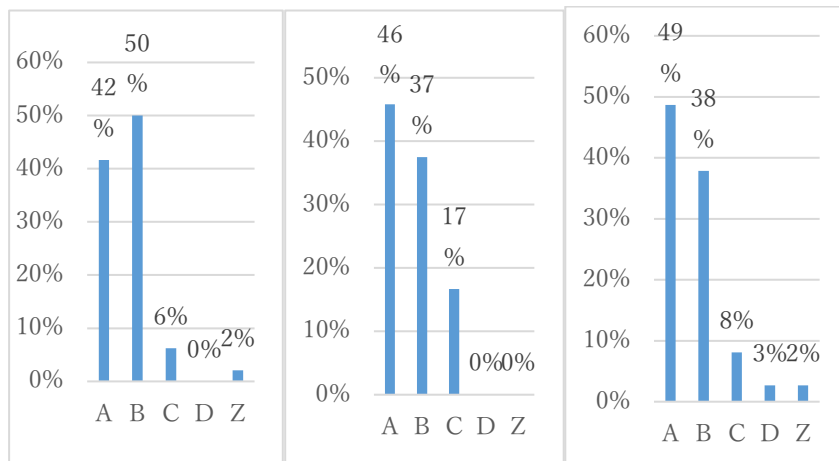
保

学校生活のきまり（生徒心得など）について学校から説明があり、家庭でも活用している。

就業技術科 1年

2年

3年

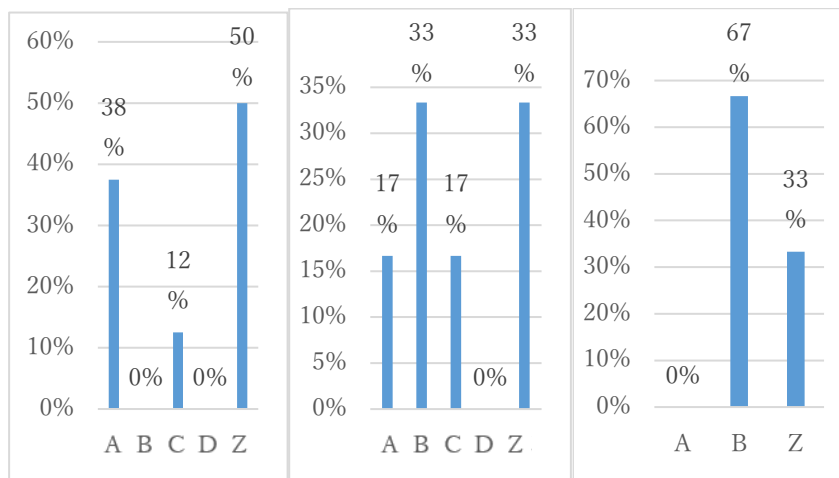


就業技術科
 1年 82点
 肯定 92% 否定 6%
 分からない 2%
 2年 78点
 肯定 83% 否定 17%
 3年 81点
 肯定 87% 否定 11%
 分からない 2%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門
 小 81点
 肯定 38% 否定 12%
 分からない 50%
 中 69点
 肯定 50% 否定 17%
 分からない 33%
 高 75点
 肯定 67% 否定 0%
 分からない 33%

【項目11—②】分析、検討

- ・教職員の肯定的評価は高いが、A評価が両部門40%を切っており、就業技術科に至っては27%と極めて低い。平均値も70点台と低い。
- ・就業技術科保護者においては、肯定的評価が80%前半から90%後半と、おおむね肯定的評価である。しかし、C評価も2年生は17%、平均値も70点台と高い。
- ・肢体不自由教育部門においては、「学校生活のきまり」の繰り返しの説明は少ない。特に小、中学部においては、児童・生徒の実態により難しい場合がある。高等部生徒については、繰り返しの必要なこととして説明をしていくとともに、御家庭での活用事例等を示していく。

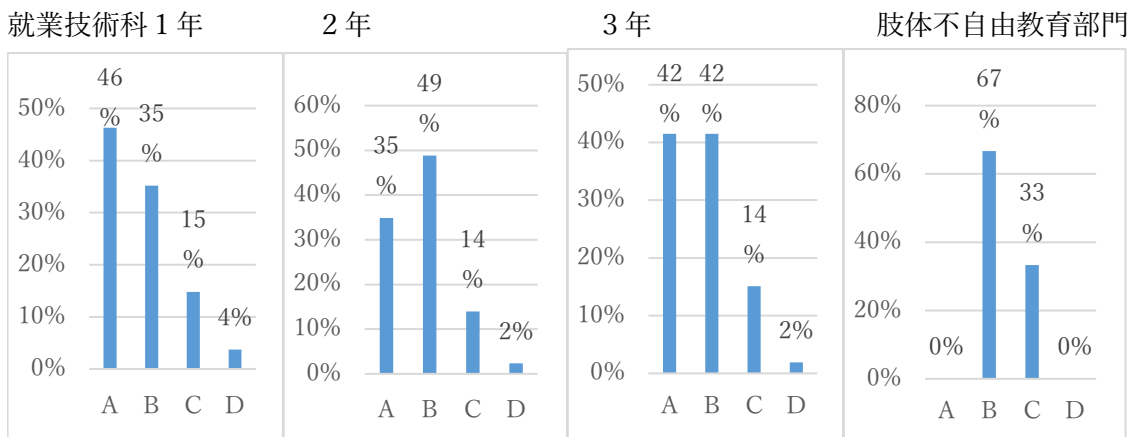
→生徒心得等、児童・生徒に伝えている規則を、教職員が確実に理解していなければならない。就業技術科においては、保護者にはその必要性を御理解いただいている。肢体不自由教育部門においては、児童・生徒の実態により伝え方の工夫が必要である。

特に就業技術科においては、就労にあたっての規則の遵守は必須事項であり、同時に社会人としてのルールやマナーについて、具体的に御家庭でも活用できるよう、生徒本人、保護者、教員が協力しながら提案していけるようにする。 生活指導部、学科主任、学年主任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校のきまりについて理解し、自分の生活に役立てようと思いましたか。



- ・就業技術科においては肯定的評価が全学年80%台。否定的評価も全学年15%以上である。
- ・肢体不自由教育部門は全体数の関係で肯定的評価が67%となっている。実態によって伝え方や手立てを工夫する必要がある。

就業技術科において、どの学年も否定的評価がほぼ同数、一定数の生徒の理解が難しいと語る。学校のきまりの根拠と、生活の中で規則がどのように生きるのか、ということの説明を、学級や個別に丁寧に行っていくとともに、定期的に確認をしていく。

生活指導部、学部、学科、担任

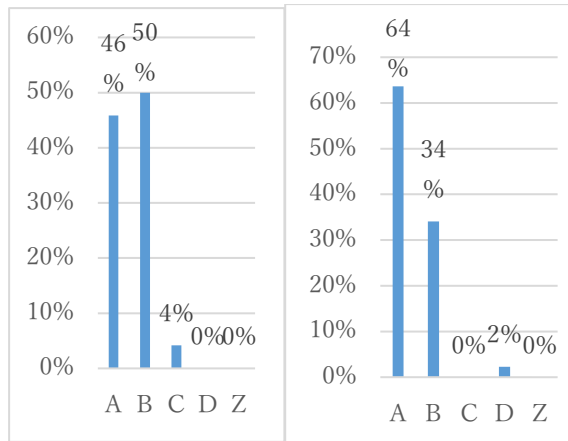
【項目12】比較

教

本校は、ホームページやX（旧 twitter）を使った情報発信を積極的に行っていると考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	84点
肯定的評価	96%
否定的評価	4%
肢体不自由教育部門	89点
肯定的評価	98%
否定的評価	2%

※CD 評価は学校介護職員、就技は C 評価 2名。

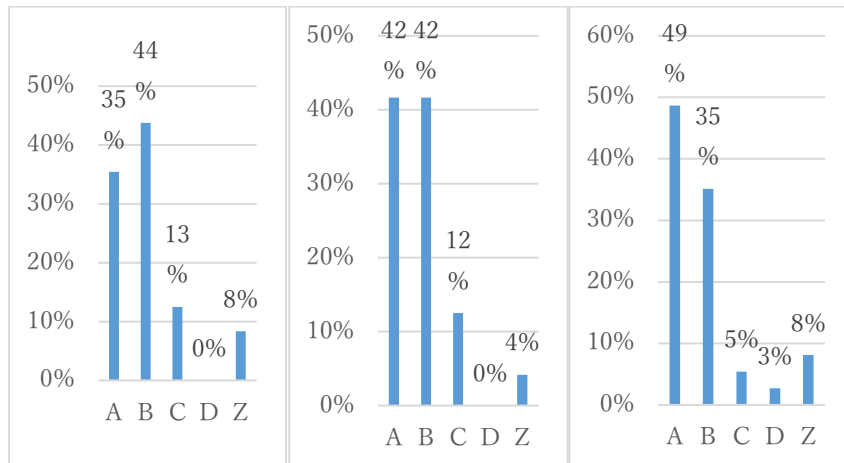
保

学校は、ホームページやX（旧 twitter）を使った情報発信を積極的に行っていると感じた。

就業技術科 1年

2年

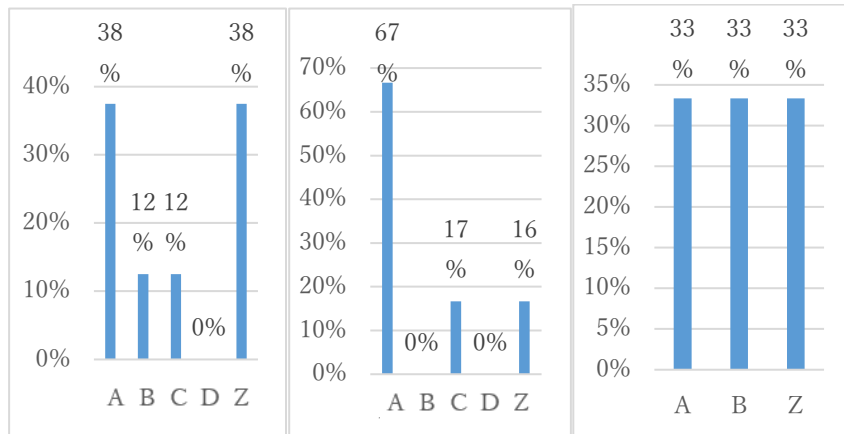
3年



就業技術科	
1年	78点
肯定	79%
否定	13%
分からない	8%
2年	79点
肯定	84%
否定	12%
分からない	4%
3年	83点
肯定	84%
否定	8%
分からない	8%

肢体不自由教育部門 小 中

高



肢体不自由教育部門	
小	80点
肯定	50%
否定	12%
分からない	38%
中	85点
肯定	67%
否定	17%
分からない	16%
高	90点
肯定	33%
否定	33%
分からない	33%

【項目12】分析、検討

- ・教職員においては、肯定的評価がほぼ 100%である。自由意見において、情報発信の内容についての意見有。平均値は 80 点代半ばである。
- ・肢体不自由教育部門保護者においては、総数が少ないため肯定的評価が低めに表れているが、全体的に 80%程度の肯定的評価が得られていると考える。就業技術科 12 年生保護者においては平均値が 80 点に満たない。
- ・ホームページや X を御覧になっていない保護者もいると考える。

→情報の更新頻度については概ね適切であると考え。情報の内容については自由意見欄を参照。

必要な情報は、文字や写真でその都度更新してきている。情報の内容についての工夫をしていくとともに、引き続きこまめな更新を行っていく。管理職、ICT 管理部

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

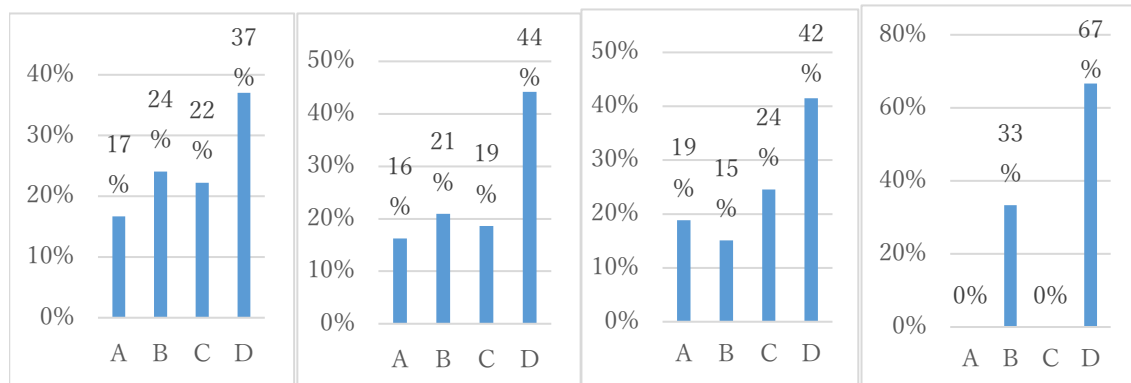
学校のホームページや X (旧 twitter) を見て、活用していますか。

就業技術科 1 年

2 年

3 年

肢体不自由教育部門



・就業技術科 1 年においての 59%を除くと、全ての学部・学科において、否定的評価が 60%を超えている。通学生にとって本項目の内容については学校内（や Teams）でお知らせしているため、本項目は生徒にとってはふさわしくないと考える。

本項目は来年度はなくしていく。項目 13 のように、実際に行っているものに付いて、活用の仕方を深めていく。

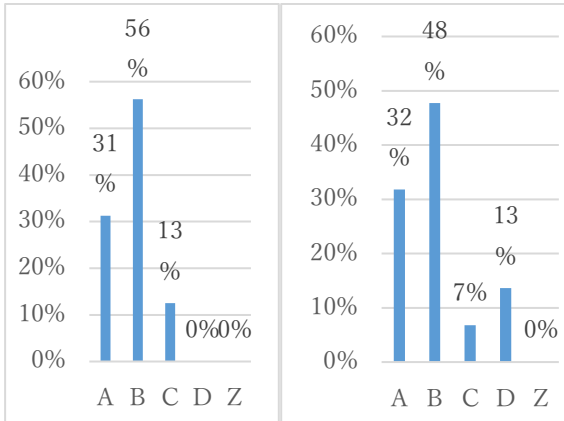
【項目 1 3】比較（保護者項目はなし。生徒学校評価との比較のみ）

教

私は、Teams を使った生徒向けの情報発信を積極的に行っていると考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	肯定的評価	87%
	否定的評価	13%
肢体不自由教育部門	肯定的評価	80%
	否定的評価	20%

※CD 評価は、肢体不自由教育部門は重重担当者や学校介護職員、就技はコース主任や主幹層

生徒

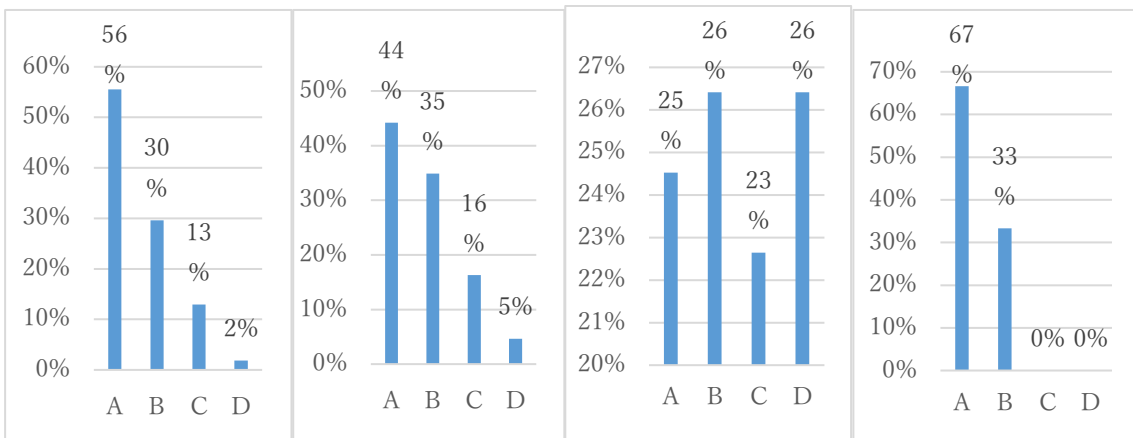
Teams を活用して課題の提出や相談を行っていますか。

就業技術科 1 年

2 年

3 年

肢体不自由教育部門



【項目 1 3】分析、検討（保護者項目はなし。）

- ・ Teams を使った生徒向けの情報発信が多いために使用状況の確認のために実施。
- ・ 就業技術科 3 年生は、Surface が配られてはいないため、授業での使用は不可能。
- ・ 就業技術科活用状況肯定的評価は 80%前半から後半。
- ・ 肢体不自由教育部門高等部においては肯定的評価 100% 。

オンライン学習や、連絡の需要は、今後増えてくると考える。日頃から Surface 等を使用した、新しい学習環境を整えていくことが引き続き課題となる。ICT 管理部、学部、学科

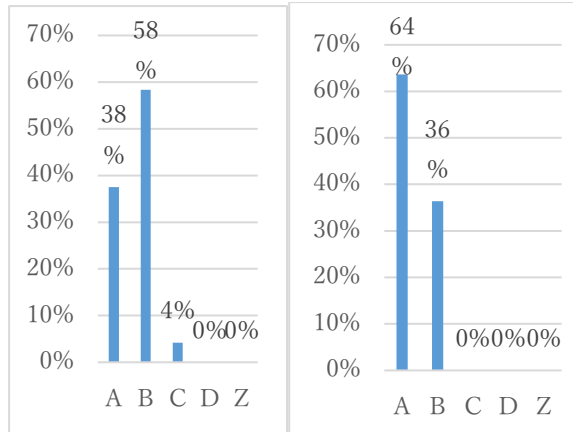
【項目14】比較

教

私は、児童・生徒の安全のために、施設（教室、体育館、校庭、プールなど）の整理整頓に努めた。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	82点
肯定的評価	96%
否定的評価	4%
肢体不自由教育部門	91点
肯定的評価	100%
否定的評価	0%
※就技 CD 評価は、担任 1 名、進路専任 1 名	

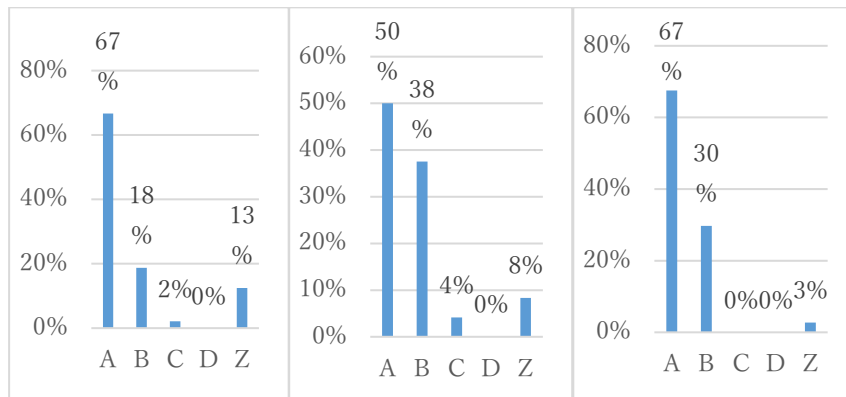
保

学校は、児童・生徒の安全のために、施設（教室、体育館、校庭、プールなど）の整理整頓を徹底していると感じた。

就業技術科 1 年

2 年

3 年

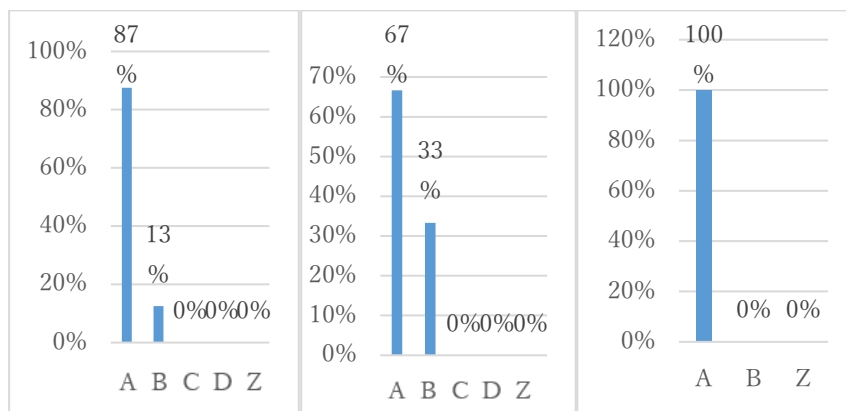


就業技術科	
1 年	93点
肯定	85%
否定	2%
分からない	13%
2 年	86点
肯定	88%
否定	4%
分からない	8%
3 年	92点
肯定	97%
否定	0%
分からない	3%

肢体不自由教育部門小

中

高



肢体不自由教育部門	
小	97点
肯定	100%
否定	0%
中	92点
肯定	100%
否定	0%
高	100点
肯定	100%
否定	0%

【項目14】分析、検討

- ・教職員はほぼ100%の肯定評価だが、就業技術科の平均値は低めである。
- ・教職員評価のA評価が30%台のため、引き続き徹底していく。
- ・保護者評価も肯定的評価が高い。来校機会の有無も関係していると考える。

→児童・生徒への安全性の確保と生徒自身の習慣化という観点でも引き続き行っていく。

整理、整頓、清潔、清掃は基本事項であり重点事項。最適な学習環境の確保と共に、安全性の視点からも継続していく。整理整頓が苦手な児童・生徒も多く、特に就業技術科においては、働く上での自己管理、安全管理という観点からも習慣化していく必要がある。

管理職、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

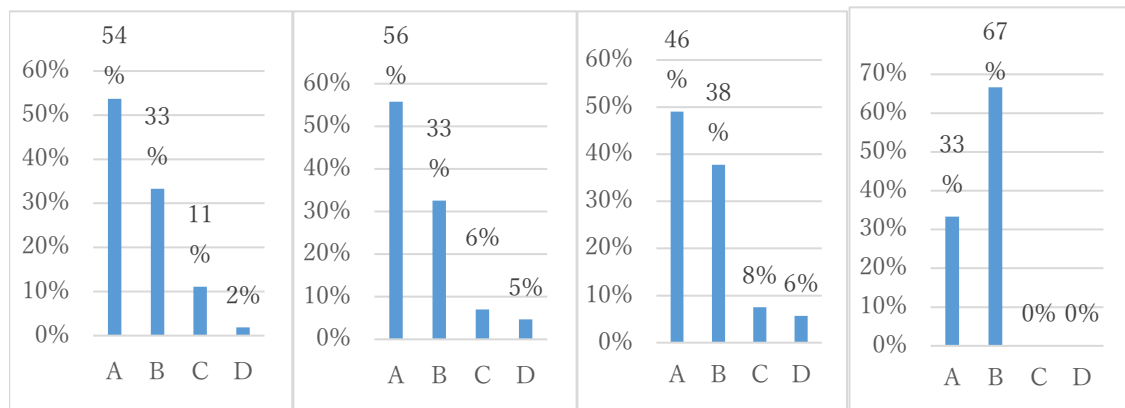
学校の教室や体育館、校庭、プールなどは整理整頓され、きれいな状態が続いていますか。

就業技術科 1年

2年

3年

肢体不自由教育部門



- ・就業技術科においては、肯定的評価が全学年80%後半。
- ・肢体不自由教育部門においては肯定的評価が100%。
- ・全体を通してA評価は50~60%前後である。
- ・就業技術科においては否定的評価が全学年10%以上ある。

生徒目線では否定的評価も多い。適切な場所の適切な整理整頓等を行う必要があり、またそれが常時保てるよう教職員が日々意識していかなければならない。生徒自身が主体的に整理整頓を習慣化していけるよう、継続していく。

全教職員

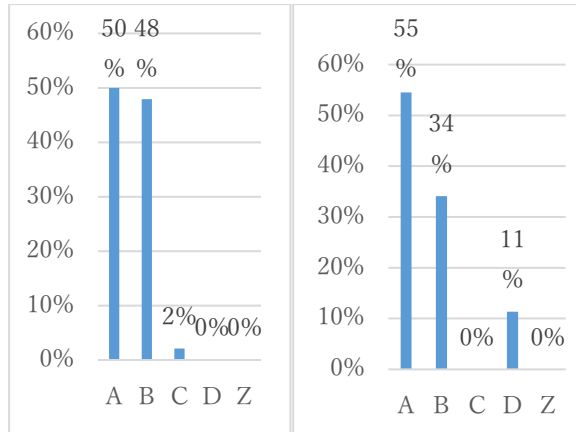
【項目15】比較

教

私は、保護者などの意見を受けとめ、改善に努めたと考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科 86点
 肯定的評価 98%
 否定的評価 2%
 肢体不自由教育部門 80点
 肯定的評価 89%
 否定的評価 11%
 ※CD 評価は学校介護職員と、就技副担1名、

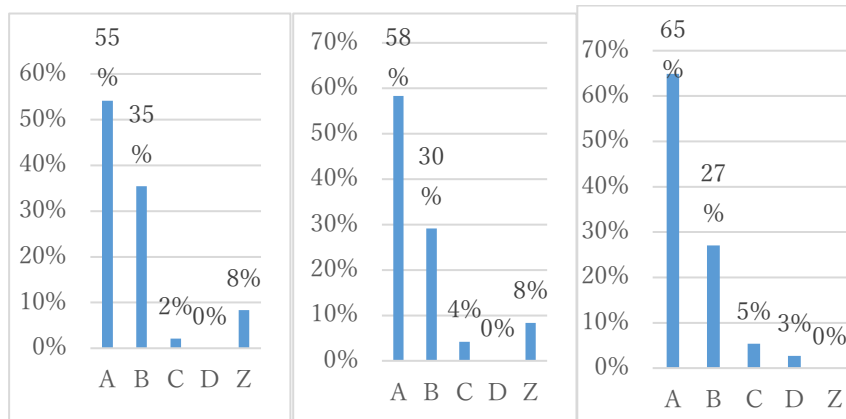
保

学校は、保護者などの意見を受けとめ、改善に努めようとする姿勢があると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年

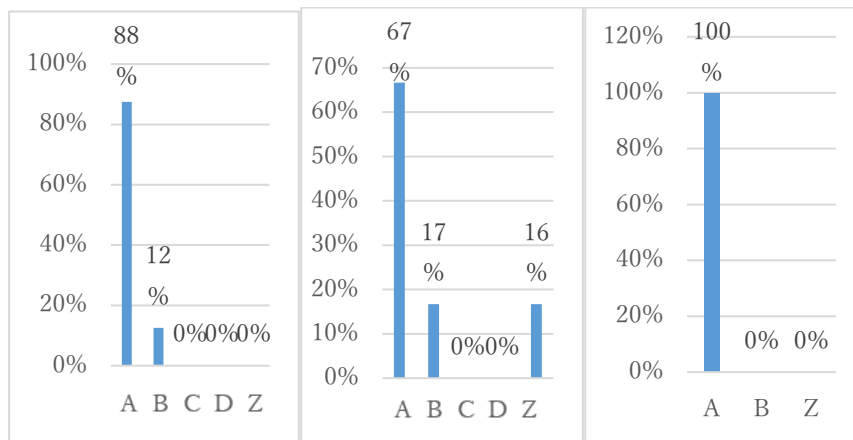


就業技術科
 1年 89点
 肯定 90% 否定 2%
 分からない 8%
 2年 89点
 肯定 88% 否定 4%
 分からない 8%
 3年 86点
 肯定 92% 否定 8%

肢体不自由教育部門小

中

高



肢体不自由教育部門
 小 65点
 肯定 100% 否定 0%
 中 90点
 肯定 84% 否定 0%
 分からない 16%
 高 100点
 肯定 100% 否定 0%

【項目15】分析、検討

- ・教職員において、ほぼ全員肯定的評価であるが、平均値は80点代前半から中盤と低めである。
 - ・保護者評価も高い割合で肯定的評価である。
 - ・就業技術科においては、学年進行とともに否定的評価が上がっている。
 - ・肢体不自由教育部門においては、中学部のみがA評価が低めであり、分からない回答が多い。
- 保護者や外部の皆様の御意見はしっかりと傾聴し、すぐに周知、報告連絡の上、改善に努めていかなければならない。評価が学部によって異なっていたり、学年進行で下がっていることは問題である。

保護者等からいただいた御意見は、組織的に連携して改善策等手立てを統一して示していかなければならない。報連相、基本的職務態度の徹底。組織的連携、周知徹底。

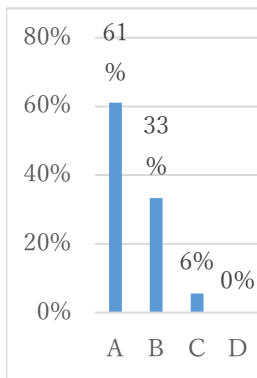
管理職、学部学科主任、学年主任、全教職員

○生徒学校評価との比較、分析、検討

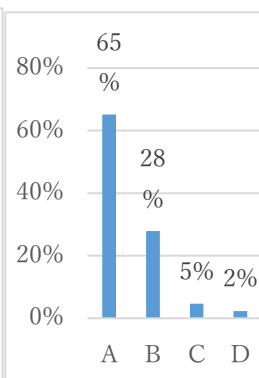
生

学校の先生は、青峰学園を児童・生徒の皆さんにとって良い学校にしようと努力していると思いますか。

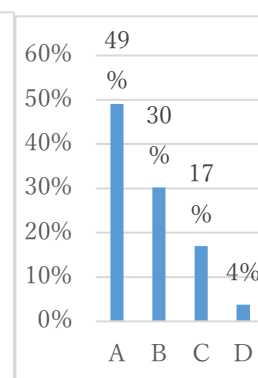
就業技術科 1年



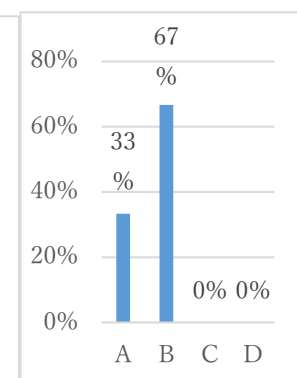
2年



3年



肢体不自由教育部門



・就業技術科においては、肯定的評価が右肩下がりであり、否定的評価が学年進行とともに下がっており、3年生については否定的評価が21%と極めて多い。

・肢体不自由教育部門においては肯定的評価が100%であるが、A評価は20%台と低い。

教職員の努力が結果に結びついていないことが考えられる。対応や言動がワンパターンで、連携し、共通理解の上での状況改善や、相談に対して傾聴する態度・姿勢が少なくなっている。相談や悩みに対する連携した対応力と、生徒一人一人に寄り添いつつ、生活の質の向上に向けた取組が特に就業技術科において必須である。全教職員、特に担任、授業担当者等生徒との関りが深い教員

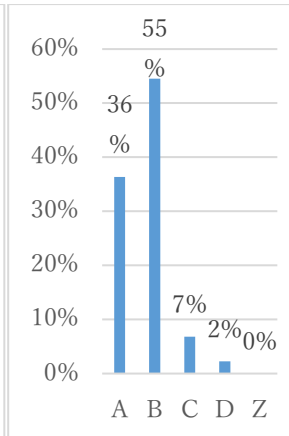
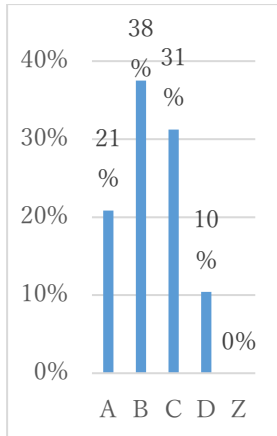
【項目16】比較

教

本校は、国や東京都の方針に基づいて、教職員の働き方改革を積極的に進めていると考える。

就業技術科

肢体不自由教育部門



就業技術科	57点
肯定的評価	59%
否定的評価	41%
肢体不自由教育部門	79点
肯定的評価	91%
否定的評価	9%

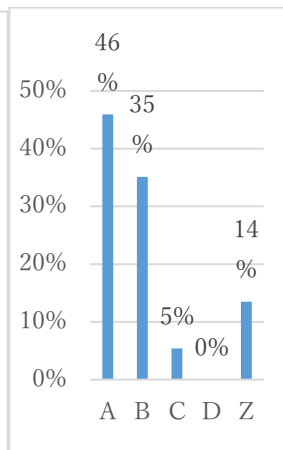
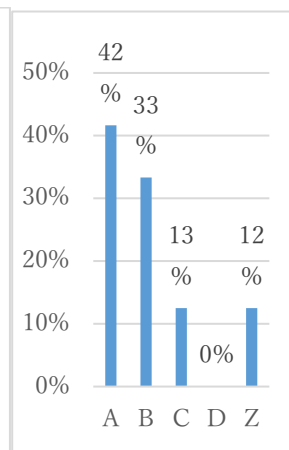
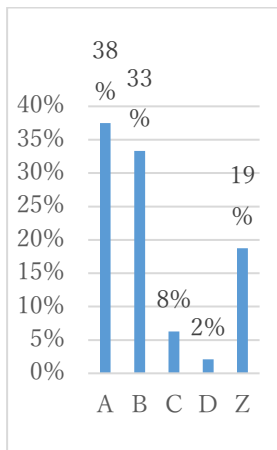
保

学校は、国や東京都の方針に基づいて、教職員の働き方改革を進めていると感じた。

就業技術科 1年

2年

3年

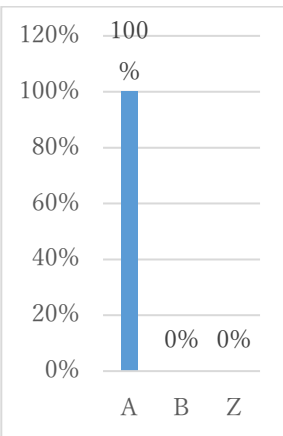
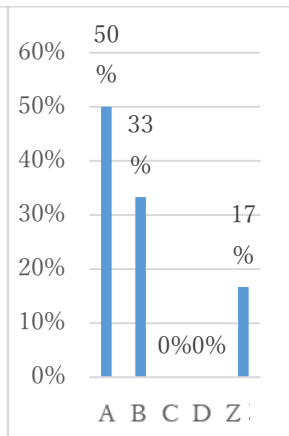
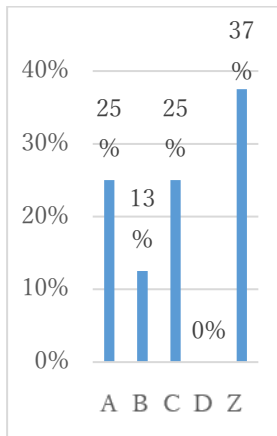


就業技術科	
1年	81点
肯定	71%
否定	10%
分からない	19%
2年	80点
肯定	75%
否定	13%
分からない	12%
3年	85点
肯定	81%
否定	5%
分からない	14%

肢体不自由教育部門 小

中

高



肢体不自由教育部門	
小	65点
肯定	38%
否定	25%
分からない	37%
中	90点
肯定	83%
否定	0%
分からない	17%
高	100点
肯定	100%
否定	0%

【項目16】分析、検討

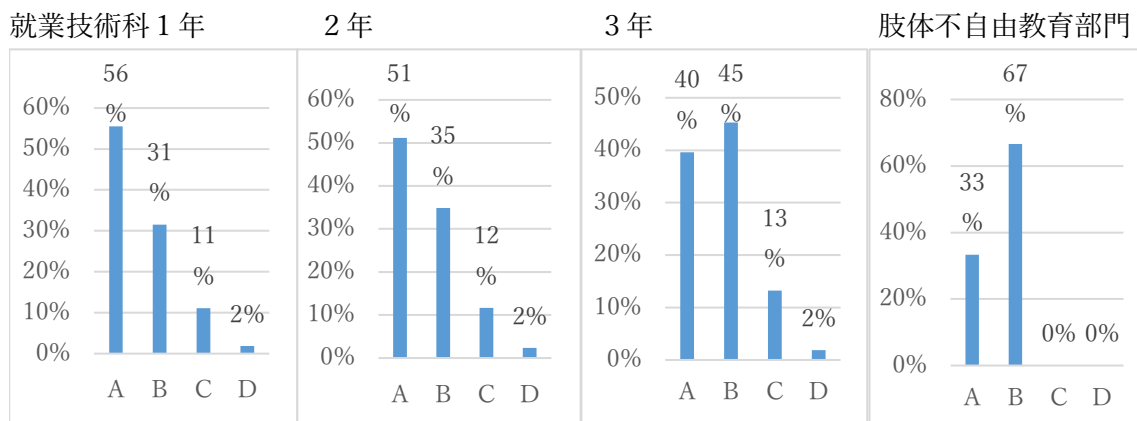
- ・教職員肢体不自由教育部門不自由においてはおおむね肯定的評価であるが、平均値は80点に満たない。教職員就業技術科においては、否定的評価が40%を超え、平均値も57点と極めて低い。
 - ・保護者においては、就業技術科1、2年は10%を超えた否定的評価がある。3年は10%未満であり、項目15と反比例していおり、それは肢体不自由教育部門中学部にも言える。
- 特に就業技術科教員において、働きづらさを感じている者が極めて多い。保護者においては分からない評価が多く、保護者への項目としては適切ではない。

学校として働き方改革を第1優先で進めていくということが必要。特に就業技術科においては、担任が日々の生徒対応、保護者対応、当然授業があり、学年業務がある。必ず部活動もち、分掌業務もある。日々の部活動終了が17時で、最終下校が17時30分、部活動のない日は会議設定があり、教材研究では授業準備を行う。学年係や分掌業務は17時半を過ぎてからできないという実情がある。同時に、欠員に対しての補充もなく、欠員がいるからと言って業務が減るわけではなく、一人当たりの業務量が増えるだけである。喫緊の課題として改善にあたらなければならない。 **管理職**

○生徒学校評価との比較、分析、検討

生

学校の先生は、心や体が元気だと思いますか。



- ・生徒から見ると、肯定的評価が高い。
- ・就業技術科においては、全学年15%程度の生徒から否定的評価がみられる。

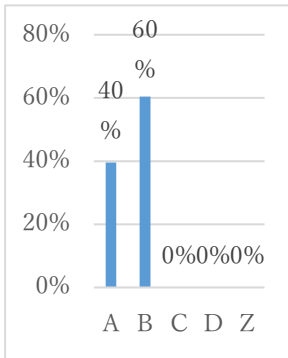
A評価は低い。心身が疲れて見られたり、特定教員の心身がおかしいと訴えてきたりした生徒もいた。教職員項目への教職員自身の評価と比例している部分大きい。上記同様、学校全体での働き方改革が必須である。 **管理職**

(2) 教職員独自項目

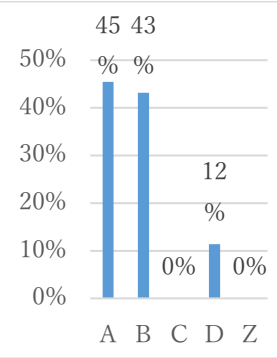
<学校経営>

①私は、今年度の学校経営計画の内容を十分理解し、自己申告の職務目標に反映させた。

就業技術科



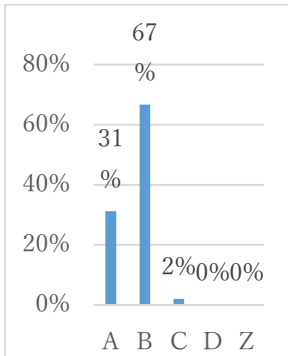
肢体不自由教育部門



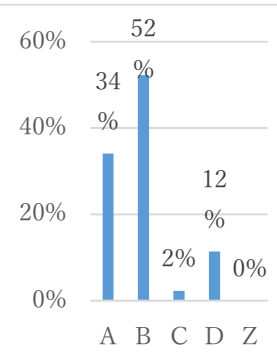
※D は学校介護職員

②私は、青峰 Vision2023①【建学の精神に基づく再認識と再構築】に向け、5S の徹底をはじめ、教育活動の価値観の共有や児童・生徒・保護者との共通理解やその浸透に努めた。

就業技術科

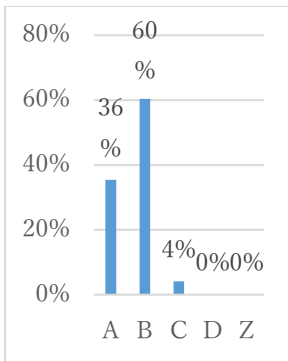


肢体不自由教育部門

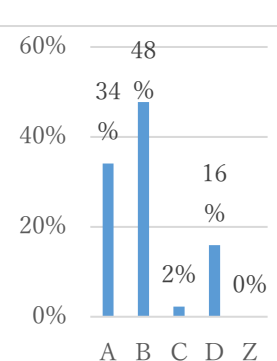


③私は、青峰 Vision2023②【新学習指導要領に基づく教育活動の実践】に向け、「主体的な学び」「指導と評価の一体化」「個別指導計画の反映」を示したシラバス、年間指導計画の作成や、授業改善に努めた。

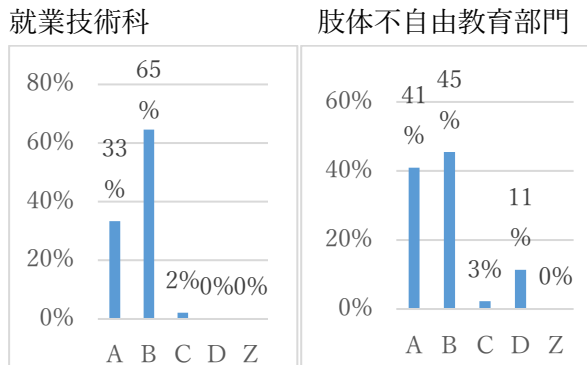
就業技術科



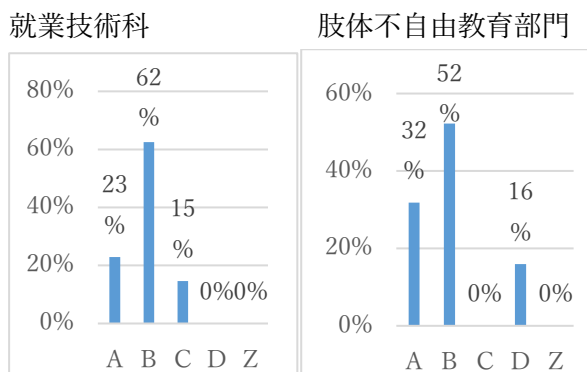
肢体不自由教育部門



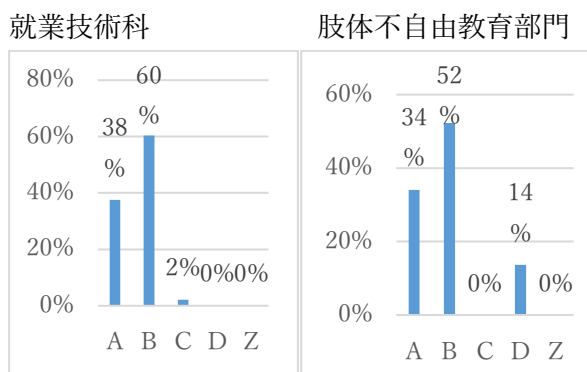
④私は、青峰 Vision2023③【両部門の一体化】に向け、共同学習等（青峰フェスタ等）への取り組みや、地域連携、地域貢献につながる活動を行った。



⑤私は、青峰 Vision2023④【質の高い生活の研究推進及び教育内容への反映】に向け、生活の質についての研修や研究に協力し、推進を図った。（2年計画）



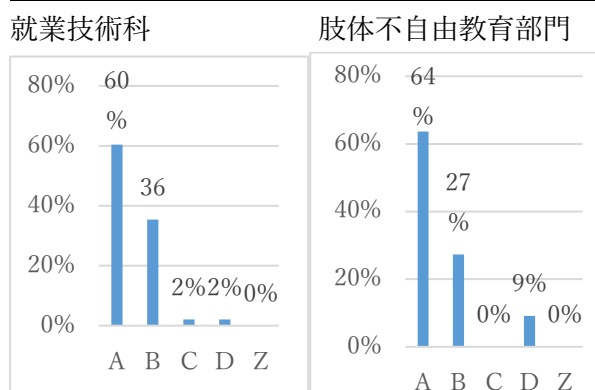
⑥私は、青峰 Vision に従い、担当業務において中期目標、重点課題等に主体的に取り組み、教育活動の充実、専門性の向上に向けての取組を行った。



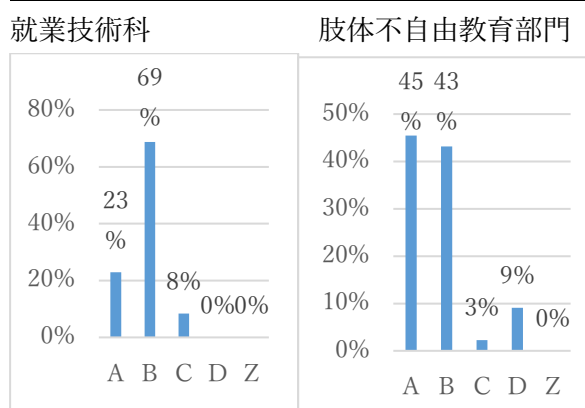
⇒①～⑥（①は自己申告有に限る）は、全教職員が自己の職責と役割を認識してできることを考えて行う必要がある。未実施は職務専念義務違反に該当する項目でもあり、CD 評価があること自体がおかしい。（CD 評価者は学校介護職員、担任をもたない教員、進路専任等）各自が職務職責を理解して確実に取り組んでいく必要がある。⑤に関しては、否定的評価が両部門 15%を超えて高い。取り組み内容が不明瞭である可能性がある。

<協力・連携>

①私は、積極的に教職員と連携・協力して教育活動を行った。



②私は、次年度や後任のことを考え、担当の業務内容を引継ぎ資料として整えた。



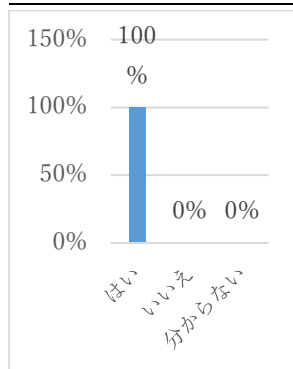
➡2項目とも、肯定的評価は高い。しかしながらこの2項目は、本来連動しているものである。連携・協力が直接的な声の掛け合いや行動として表れてはいるが、資料や、誰が見ても分かるものとしては残していないことを表している。また担当者同士の中では共有できていても、それが学年、学部学科、学校という大きな単位の中でできていない可能性を示唆している。実施事後の反省等をまとめて、改善策として整理していない、ということも考えられる。

(3) 地域評価

①結果

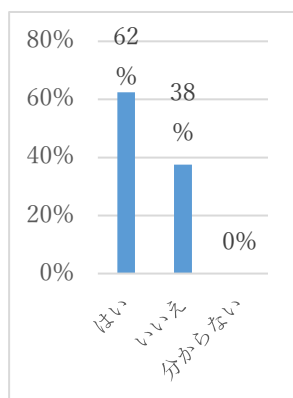
【項目1】

都立青峰学園が地域にあることを知っている。



【項目2】

都立青峰学園に来校したことがある。



○来校した機会は？

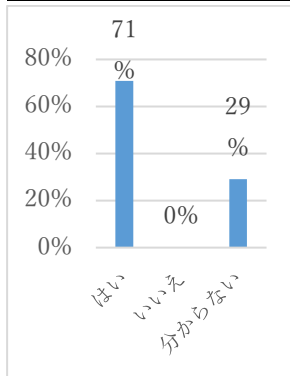
青梅市障害施設連絡会 7 学校運営連絡協議会 2 送迎 1 交流授業 1

交流の中で実習などの受け入れ、学校での認知症サポーター養成講座などの授業 1

地域見学 1 学校訪問 1 防災教育推進委員会 1 見学会 1 研修 1 のんびりカフェ 1

【項目3】

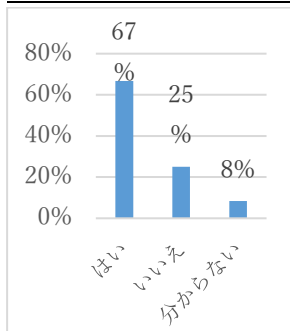
校舎内外の教育環境は、整備されている。



【項目4】

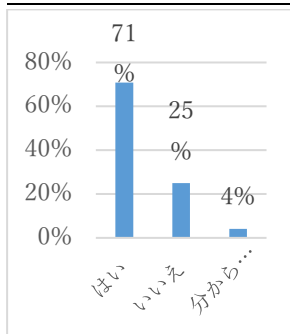
生徒が授業の一環で、街路樹下の花植えを行っていることを知っている。

※青梅市大門市民センター花壇植栽も行わせていただいています。



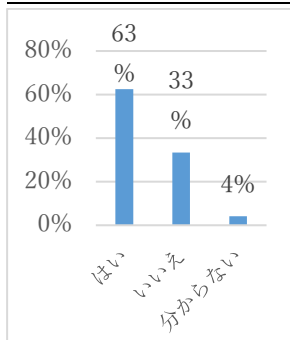
【項目5】

本校に喫茶室（のんびりカフェ）があることを知っている。



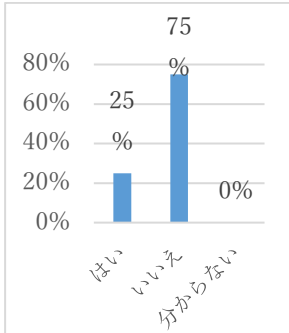
【項目6】

花・パン等、授業の中で生徒が手掛けた製品の販売を行っていることを知っている。



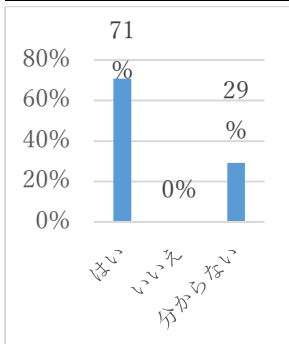
【項目7】

のんびりカフェや花、パン等の製品の販売活動を利用したことがある。



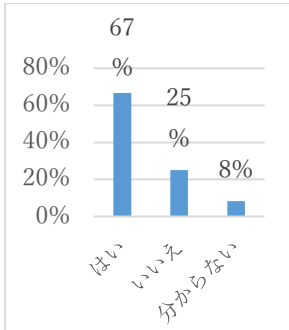
【項目8】

子どもたちは、明るく伸び伸びと学校生活を送っている。



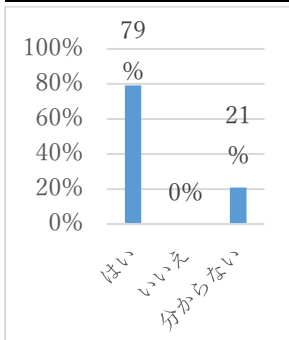
【項目9】

児童・生徒の登下校の様子を見たことがある。



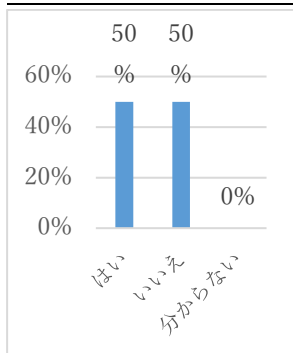
【項目10】

電話や窓口等、教職員の対応は適切である。



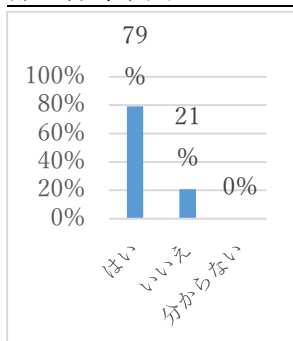
【項目 1 1】

正門脇の掲示板を見たことがある。



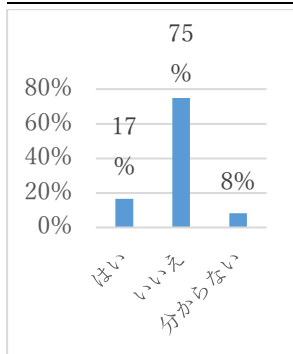
【項目 1 2】

都立青峰学園のホームページを見たことがある。



【項目 1 3】

都立青峰学園の公式 Twitter を見たことがある。



②分析、検討

地域や関係者の方々への設問にもかかわらず、教育内容において知られていない内容が多くみられる。学校来校機会の少なさや広報の不足が原因として挙げられる。ただし、生徒の実態に応じた学習が基盤であることから、学習の機会としての地域との関りを通じた改善が望ましい。改善としては以下の3点が挙げられる。

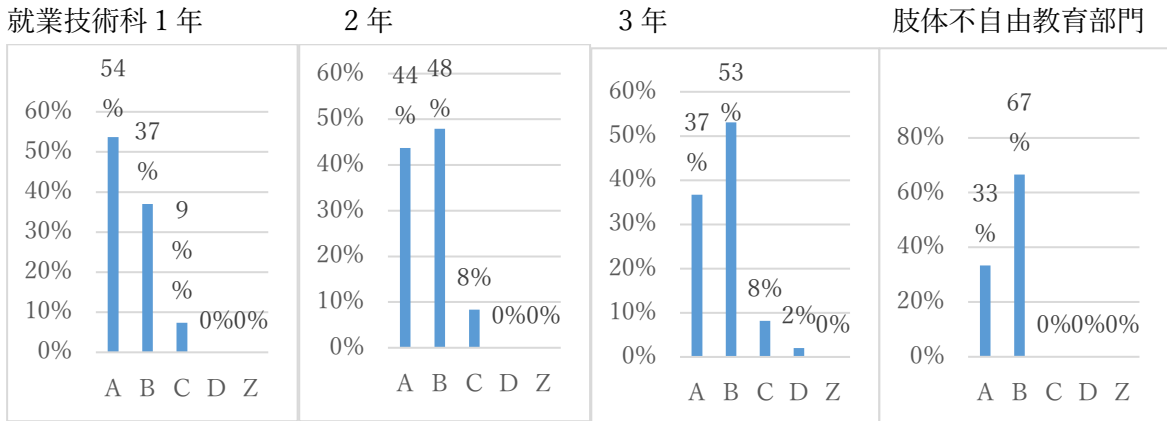
- 1) のんびりカフェ、地域活動の広報、新聞等の配布
- 2) 地域来校機会の拡大
- 3) 受注業務の宣伝

(4) 生徒授業評価

①結果、分析

【項目1】

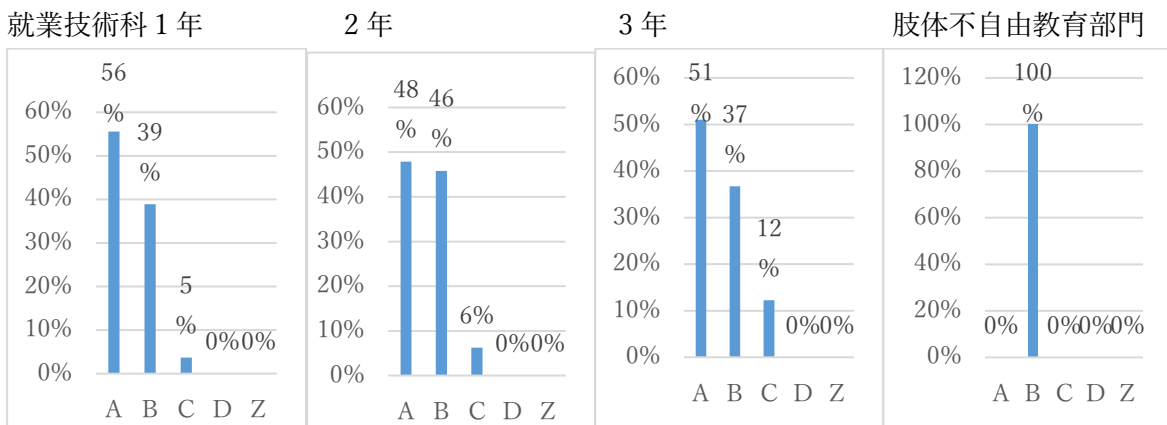
あなたは、それぞれの授業の目標や身に付ける力が理解できましたか。



➡肯定的評価が両部門 90%以上。引き続き目標や身に付く力を明確に示していく。

【項目2】

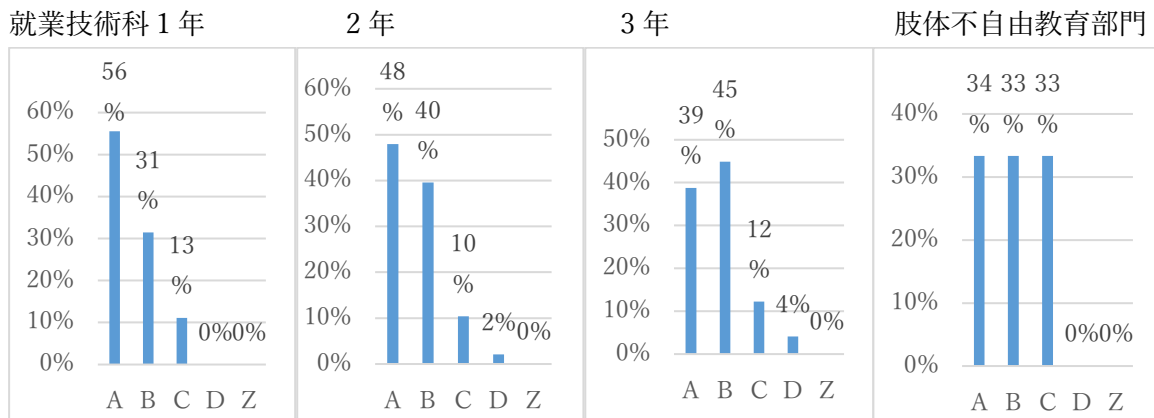
あなたは、授業の内容を理解することができましたか。



➡肯定的評価は高いが、就業技術3年生は否定的評価が10%を超えている。観点別学習状況の評価と、指導のPDCAの継続。—授業力、指導力

【項目3】

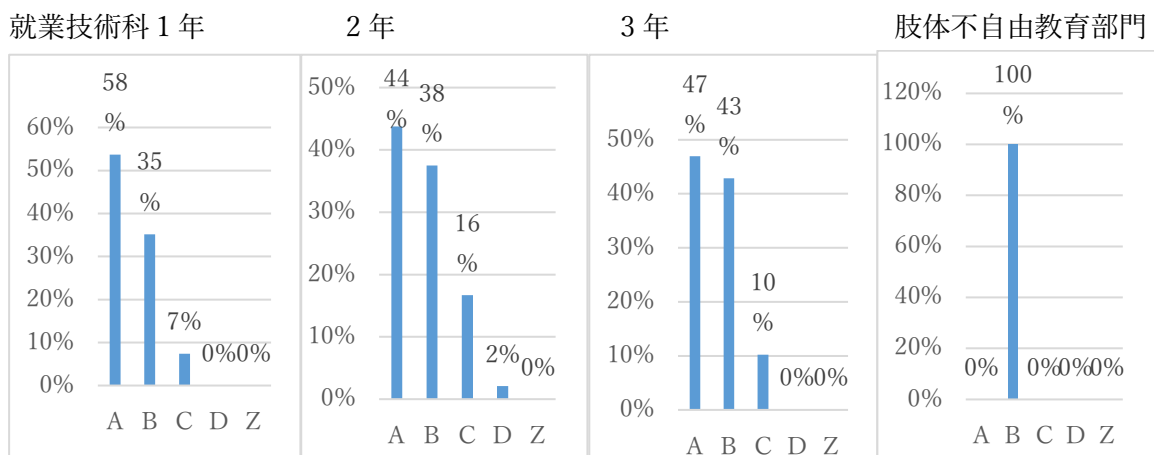
あなたは、授業に積極的に参加することができましたか。



→肯定的評価は高いが、就業技術科は学年進行で否定的評価が上がっている。意欲や積極性は、主体的に学習に向かう姿勢や態度と関連する。対話的で深い学びの取組の深化を行う。—授業力、指導力

【項目4】

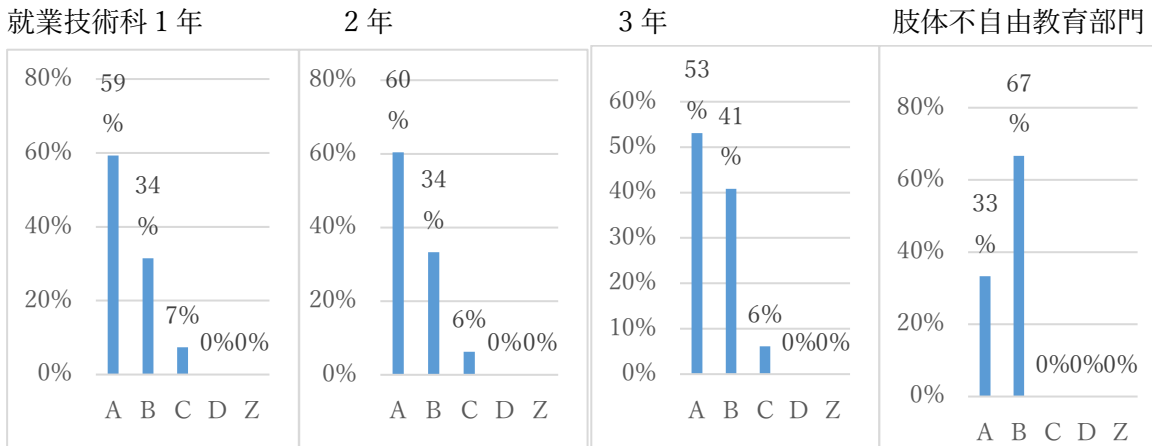
あなたにとって、授業の進むはやさはちょうど良かったですか。



→就業技術科2、3年で、否定的評価が10%以上みられる。全体的に肯定的評価自体は高いが、A評価は両部門50%前後しかない。進度、話す速さも含め、観点別学習状況の評価を進めて、適切な計画の修正・改善を行っていく必要がある。

【項目5】

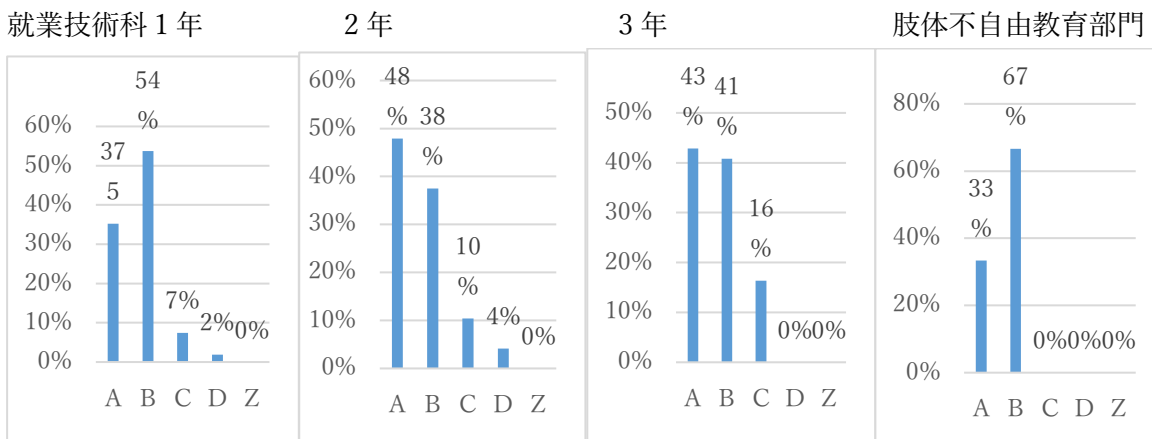
あなたにとって、先生の説明は丁寧で、分かりやすかったですか。



➡肯定的評価が両部門高い。A評価が50～60%前後なので、引き続き、丁寧で分かりやすい授業実施を心掛けていく。

【項目6】

あなたは、授業中、先生に質問しやすかったですか。

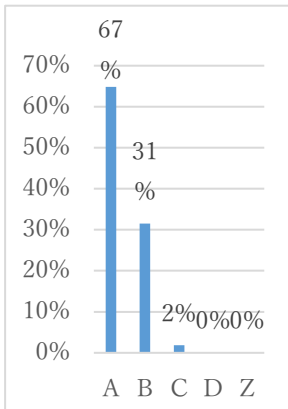


➡肯定的評価は80%以上あるが、就業技術科ではおおむね10%以上の否定的評価もある。項目5、よりも否定的評価が多い。「対話的な学び、深い学び」の中で、疑問や課題を生徒自身が見付けて、主体的に解決に向けての取組を行おうとする姿勢が求められている。質問に対して、教職員が答え方を工夫して、生徒自らが考察できるような手立てや仕掛けをしていかなければならない。そのため、雰囲気等の環境づくりを引き続き行っていく。—授業力、指導力

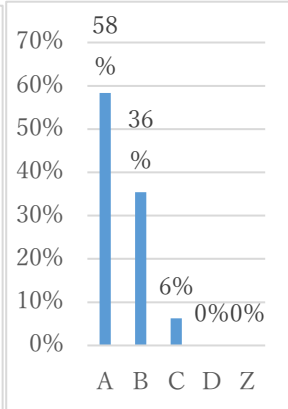
【項目7】

先生は、あなたの質問に対し、分かりやすく答えてくれましたか。

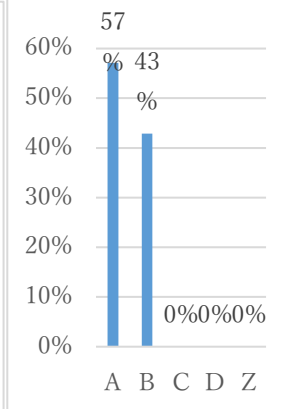
就業技術科 1年



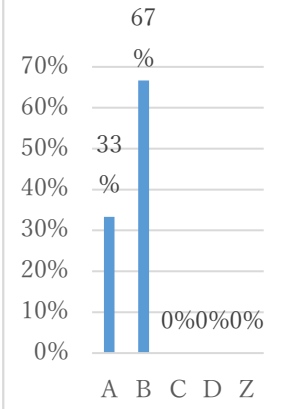
2年



3年



肢体不自由教育部門

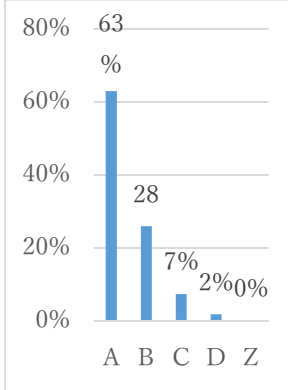


→両部門とも肯定的評価が90%を超えている。引き続き丁寧に、分かりやすい対応を行っていく。

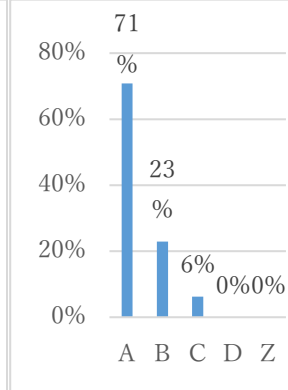
【項目8】

授業で使うプリントやホワイトボード（の書き方）は見やすかったですか。

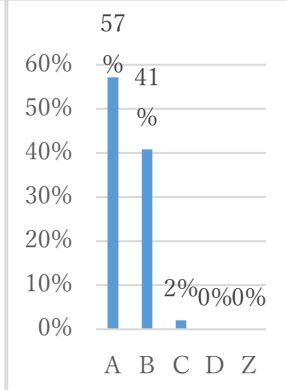
就業技術科 1年



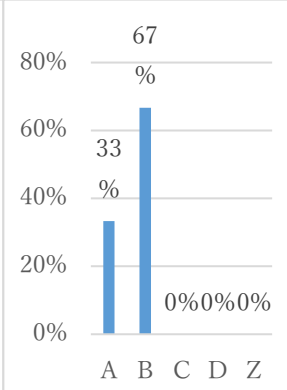
2年



3年



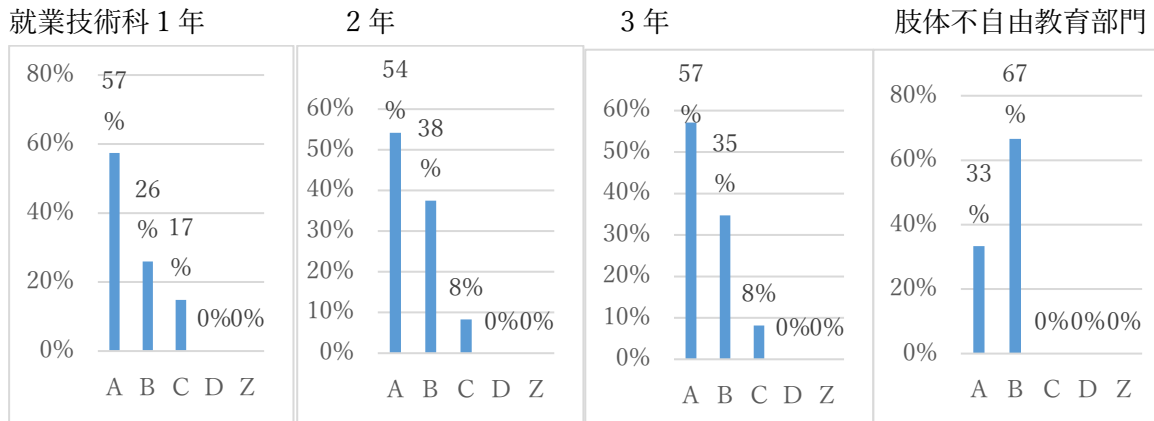
肢体不自由教育部門



→両部門とも肯定的評価が高い。継続していく。

【項目9】

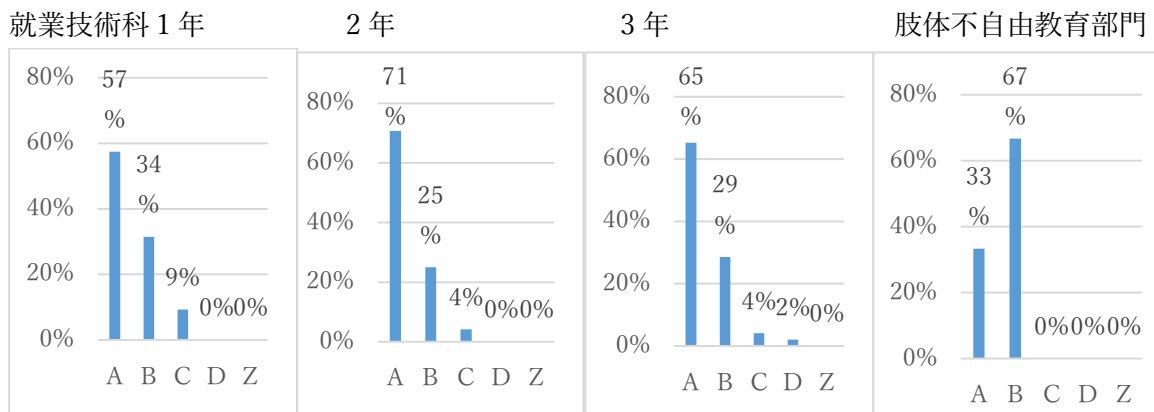
先生は、生徒全員が授業に集中できるように、工夫をしていますか。



⇒肯定的評価は高いが、A評価が少ない。また、就業技術科1年については、否定的評価が15%である。特に就業技術科1年の授業担当者は、工夫が必要である。－授業力、指導力

【項目10】

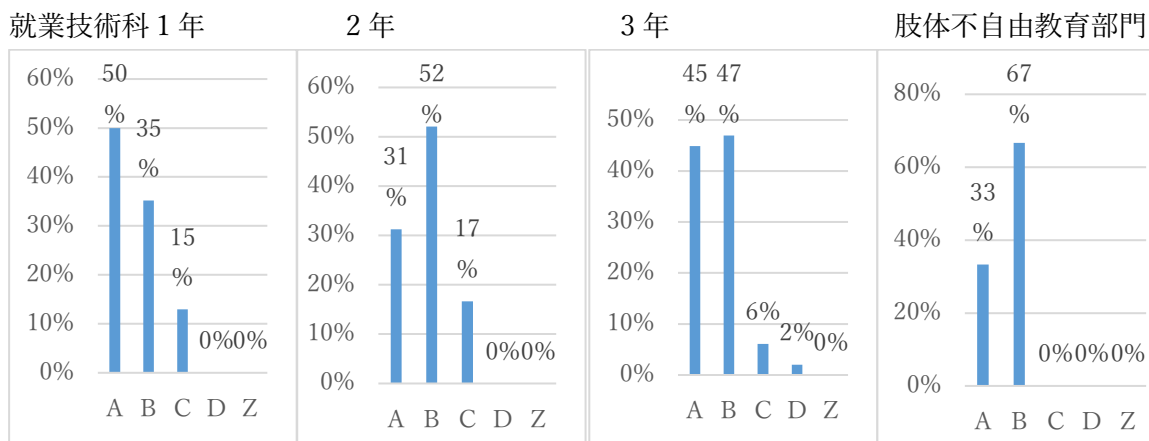
先生は、授業に熱意をもって取り組んでいますか。



⇒両部門とも肯定的評価が高い。継続していく。

【項目1 1】

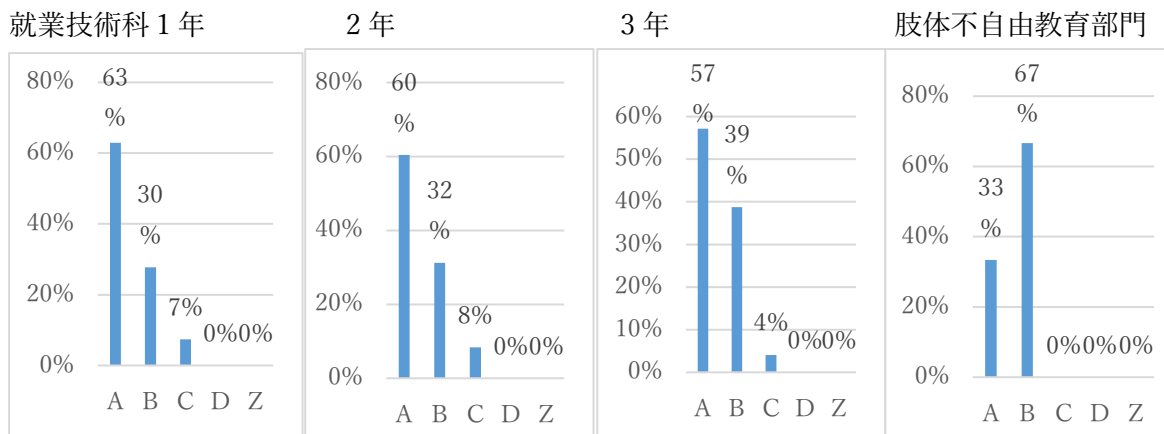
あなたは、授業に積極的に取り組む工夫をしていますか。



→項目3との関連。積極性は、学習に取り組む意欲態度の初期段階。就業技術科の1、2年生の否定的評価が15%前後と高い。社会人になるための意欲、態度、マナーを学ぶ本校において、社会へ出る意味合いと、身に付けていく力を繰り返し指導していく必要がある。また、工夫の仕方の例示や、取り組んだことに対する即時評価（肯定的評価）を行い、社会的有用感や自己効力感を高めていく必要がある。—授業力、指導力

【項目1 2】

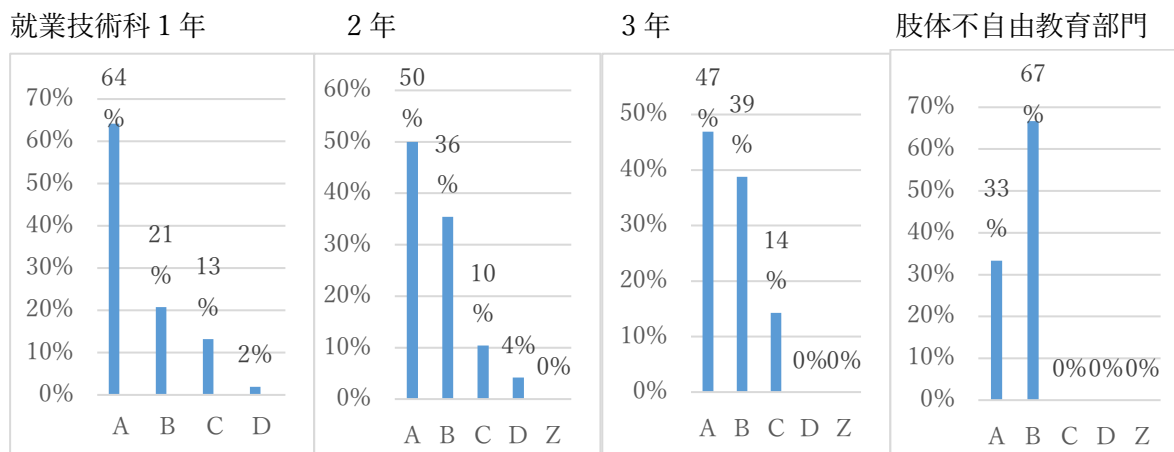
あなたは、授業によって、分かったことやできることが増えましたか。



→両部門とも肯定的評価が高い。継続していく。

【項目13】

あなたは、青峰学園の授業を受けてよかったですか。



→肯定的評価は全 85%以上あるが、就業技術科においては否定的評価も平均して 15%前後ある。就業技術科は、シラバス等单元ごとの評価規準を含めた綿密な授業計画の作成とともに、各教科と他教科や学科目標との関連性を明確に示し、身に付く力を提示していく。同時に、3 年後の社会生活に向け、自己効力感や社会的有用感を醸成し、生活の質の向上に向けての取組を深めていく。

②結果、分析から

授業力、指導力の向上への取組として、就業技術科ではこの 2 年間で新学習指導要領に対応したシラバスの作成、深化を行った。シラバスには、各教科指導目標、单元ごとの指導内容、单元ごとの評価基準、指導のポイント、使用教科書、指導時数を記載。年間指導計画や個別指導計画に反映させられる内容として、指導根拠の作成を行った。本計画の整理精選を、観点別学習状況の評価や、教科会での担当者の話し合いを継続して行うことで実施していく。今後はこの指導根拠-教科書となるものにプラスして、対応力の向上が必要である。生徒の興味関心を引き出し、積極性や主体性の伸長を図る時に、指導している教員との信頼は大きく関係する。生徒学校評価の項でも述べたが、相談力や対応力等、教員のコミュニケーション力の向上は大きな課題であると言える。項目 13 の分析内容とともに、相談力、対応力の向上を行っていく。